

SYLLABAUS

製鉄記念八幡看護専門学校

2026 年度生

目 次

教育理念・教育目的・教育目標			ページ 1
教育課程一覧			2
教育課程進度表			3
試験計画表			4
基礎分野	科学的思考の基盤	生活科学	6
		教育学	7
		情報科学	8
		情報管理	10
		生命倫理	12
	人間の生活・社会の理解	心理学	13
		人間関係論	14
		社会学	15
		英語Ⅰ	16
		英語Ⅱ	18
		人間と文化活動	19
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	20
		解剖生理学Ⅱ	22
		看護形態機能学	24
		生化学	25
		微生物学	26
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(総論)	27
		看護の視点で病気をみるⅠ	28
		看護の視点で病気をみるⅡ	30
		病理学Ⅰ	32
		病理学Ⅱ	33
		病理学Ⅲ	35
		病理学Ⅳ	37
		病理学Ⅴ	38
		薬理学Ⅰ	39
		薬理学Ⅱ	40
		栄養学	41
	健康支援と社会保障制度	環境学	42
		公衆衛生学	43
		社会保障	44
		関係法規Ⅰ	45
		関係法規Ⅱ	46
専門分野	基礎看護学	看護学概論	47
		看護研究Ⅰ	48

専門分野		看護研究Ⅱ	49
		看護安全	50
		生活援助方法論	51
		ヘルスアセスメント	54
		看護過程方法論	56
		治療処置別看護Ⅰ	57
		治療処置別看護Ⅱ	59
		リハビリテーション看護論	61
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	62
		地域・在宅看護論Ⅰ	63
		地域・在宅看護論Ⅱ	64
		地域・在宅看護論Ⅲ	66
		地域・在宅看護論Ⅳ	67
	成人看護学	成人看護学概論	68
		成人看護学Ⅰ	69
		成人看護学Ⅱ	71
		成人看護学Ⅲ	73
		成人看護学Ⅳ	74
		成人看護学Ⅴ	76
	老年看護学	老年看護学概論	78
		老年看護学Ⅰ	79
		老年看護学Ⅱ	80
	小児看護学	小児看護学概論	81
		小児看護学Ⅰ	83
		小児看護学Ⅱ	84
	母性看護学	母性看護学概論	85
		母性看護学Ⅰ	86
		母性看護学Ⅱ	87
	精神看護学	精神看護学概論	89
		精神看護学Ⅰ	90
		精神看護学Ⅱ	92
	看護の統合と実践	看護管理	93
		看護倫理	94
		医療安全Ⅰ	95
		医療安全Ⅱ	96
	臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習	97
		基礎看護学Ⅱ実習	98
		地域・在宅看護論実習	99
		成人看護学実習	100
		経過別看護Ⅰ実習	101
		経過別看護Ⅱ実習	102

		老年看護学Ⅰ実習	103
		老年看護学Ⅱ実習	104
		小児看護学実習	105
		母性看護学実習	106
		精神看護学実習	107
		看護の統合と実践実習	108

教 育 理 念

看護の知識を深め、技術を磨き、博愛の精神を持って社会に貢献できる人材を育成する。

教 育 目 的

看護に必要な知識・技術・態度を修得すると共に、社会人としての豊かな人間性と倫理観を身につけ、質の高い安全な看護を提供できる看護師を育成する。

教 育 目 標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
2. 対象を中心としたチーム医療を提供するために、看護師としての人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた安全な看護を実践するために必要な、臨床判断を行う基礎的能力を養う。
4. 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、対象の健康上の課題、健康の状態、発達段階に応じて実践する基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割および他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。
6. 専門職業人としての倫理観を高め、主体的に学び、自己啓発し続ける能力を養う。

アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

1. 看護を学ぶ目的意識が明確である人。
2. 多様な価値観を受け入れる柔軟性がある人。
3. 人々の健康や生活に関心がある人。
4. 入学後の就学に必要な基礎学力を有している人。
5. 自ら学び続ける意欲のある人。
6. 社会の一員として自覚と責任感がある人。

看護基礎教育終了時の学生像

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として幅広く理解できる。
2. 科学的根拠に基づいた安全な看護を実践するための知識・技術を修得する。
3. 科学的思考をもとに状況を判断し、対象に必要な看護を考え実践できる。
4. 専門職業人としての自覚と責任を持ち、倫理観をもって行動できる。
5. さまざまな人々との関係性を築き、チームの一員として看護師の果たす役割を理解する。
6. 時代の変化や社会の動向に関心をもち、看護のニーズに対応できる。
7. 探究心・向上心をもって自己の看護観を発展させることができる。

教育課程一覧

教育内容		科目	単位	時間	1年		2年		3年	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	生活科学	1	15	1	15				
		教育学	1	30	1	30				
		情報科学	2	60	2	60				
		情報管理	1	15			1	15		
		生命倫理	1	30	1	30				
	人間の生活・社会の理解	心理学	1	30	1	30				
		人間関係論	1	30	1	30				
		社会学	1	30	1	30				
		英語 I	2	45	2	45				
		英語 II	2	30			2	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人間と文化活動	1	30	1	30				
		小計	14	345	11	300	3	45		0
	疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学 I	2	45	2	45				
		解剖生理学 II	2	45	2	45				
		看護形態機能学	1	15	1	15				
		生化学	1	15	1	15				
		微生物学	1	30	1	30				
		病理学(総論)	1	30	1	30				
		看護の視点で病気をみる I	1	30	1	30				
		看護の視点で病気をみる II	1	30			1	30		
		病理学 I	1	15					1	15
		病理学 II	1	30			1	30		
		病理学 III	1	30			1	30		
		病理学 IV	1	15					1	15
		病理学 V	1	15					1	15
		薬理学 I	1	15	1	15				
		薬理学 II	1	15			1	15		
	健康支援と社会保障制度	栄養学	1	15	1	15				
		環境学	1	15	1	15				
		公衆衛生学	1	15					1	15
		社会保障	2	30					2	30
		関係法規 I	1	15	1	15				
専門分野	基礎看護学	関係法規 II	1	15					1	15
		小計	24	480	13	270	4	105	7	105
		看護学概論	1	30	1	30				
		看護研究 I	1	30	1	30				
		看護研究 II	1	30					1	30
		看護安全	1	15	1	15				
		生活援助方法論	2	90	2	90				
		ヘルスアセスメント	1	45	1	45				
		看護過程方法論	1	30	1	30				
		治療処置別看護 I	1	45	1	45				
		治療処置別看護 II	1	45			1	45		
		リハビリテーション看護論	1	30	1	30				
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	1	15				
		地域・在宅看護論 I	1	15			1	15		
		地域・在宅看護論 II	2	45			2	45		
		地域・在宅看護論 III	1	30					1	30
		地域・在宅看護論 IV	1	15					1	15
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
		成人看護学 I	1	45			1	45		
		成人看護学 II	1	30	1	30				
		成人看護学 III	1	30	1	30				
		成人看護学 IV	1	30			1	30		
	老年看護学	成人看護学 V	1	30			1	30		
		老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学 I	2	30			2	30		
		老年看護学 II	1	30			1	30		
	小児看護学	小児看護学概論	2	45	2	45				
		小児看護学 I	1	30			1	30		
		小児看護学 II	1	30			1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	1	30				
		母性看護学 I	1	15			1	15		
		母性看護学 II	2	60			2	60		
	精神看護学	精神看護学概論	1	15			1	15		
		精神看護学 I	2	45			2	45		
		精神看護学 II	1	30					1	30
	看護の統合と実践	看護管理	1	15					1	15
		看護倫理	1	30					1	30
		医療安全 I	1	30			1	30		
		医療安全 II	1	30					1	30
		基礎看護学 I 実習	1	45	1	45				
専門分野	臨地実習	基礎看護学 II 実習	2	90			2	90		
		地域・在宅看護論実習	2	90					2	90
		成人看護学実習	2	90			2	90		
		経過別看護 I 実習	2	90					2	90
		経過別看護 II 実習	2	90					2	90
		老年看護学 I 実習	2	90			2	90		
		老年看護学 II 実習	2	90			2	90		
		小児看護学実習	2	90					2	90
		母性看護学実習	2	90			2	90		
		精神看護学実習	2	90					2	90
		看護の統合と実践実習	2	90					2	90
		小計	66	2235	18	570	29	945	19	720
		総計	104	3060	42	1140	36	1095	26	825

教育課程進度表

科目		単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	生活科学	1	15	→					
	教育学	1	30		→				
	情報科学	2	60	→	→				
	情報管理	1	15			→			
	生命倫理	1	30		→				
	心理学	1	30		→				
	人間関係論	1	30	→	→				
	社会学	1	30		→				
	英語Ⅰ	2	45	→	→				
	英語Ⅱ	2	30			→			
	人間と文化活動	1	30	→	→				
専門基礎分野	小計	14	345						
	解剖生理学Ⅰ	2	45	→	→				
	解剖生理学Ⅱ	2	45	→	→				
	看護形態機能学	1	15	→	→				
	生化学	1	15		→				
	微生物学	1	30	→	→				
	病理学(総論)	1	30		→				
	看護の視点で病気をみるⅠ	1	30		→	→			
	看護の視点で病気をみるⅡ	1	30			→			
	病理学Ⅰ	1	15					→	
	病理学Ⅱ	1	30			→	→		
	病理学Ⅲ	1	30			→	→		
	病理学Ⅳ	1	15					→	→
	病理学Ⅴ	1	15					→	→
	薬理学Ⅰ	1	15		→				
	薬理学Ⅱ	1	15			→			
	栄養学	1	15	→					
	環境学	1	15	→					
	公衆衛生学	1	15					→	→
	社会保障	2	30					→	→
	関係法規Ⅰ	1	15	→				→	→
	関係法規Ⅱ	1	15						→
	小計	24	480						
専門分野	基礎	看護学概論	1	30	→				
		看護研究Ⅰ	1	30	→				
		看護研究Ⅱ	1	30				→	→
		看護安全	1	15	→				
		生活援助方法論	2	90	→				
		ヘルスアセスメント	1	45	→				
		看護過程方法論	1	30	→				
		治療処置別看護Ⅰ	1	45	→				
		治療処置別看護Ⅱ	1	45	→	→			
		リハビリテーション看護論	1	30	→	→			
	地域・在宅	地域・在宅看護概論	1	15	→	→			
		地域・在宅看護論Ⅰ	1	15		→			
		地域・在宅看護論Ⅱ	2	45		→	→		
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	30				→	
		地域・在宅看護論Ⅳ	1	15					→
	成人	成人看護学概論	1	30	→	→			
		成人看護学Ⅰ	1	45	→	→			
		成人看護学Ⅱ	1	30	→	→			
		成人看護学Ⅲ	1	30	→	→			
		成人看護学Ⅳ	1	30	→	→			
		成人看護学Ⅴ	1	30	→	→			
	老年	老年看護学概論	1	30	→				
		老年看護学Ⅰ	2	30	→	→			
		老年看護学Ⅱ	1	30	→	→			
	小児	小児看護学概論	2	45	→	→			
		小児看護学Ⅰ	1	30	→	→			
		小児看護学Ⅱ	1	30	→	→			
	母性	母性看護学概論	1	30	→	→			
		母性看護学Ⅰ	1	15	→	→			
		母性看護学Ⅱ	2	60	→	→			
	精神	精神看護学概論	1	15	→	→			
		精神看護学Ⅰ	2	45	→	→			
		精神看護学Ⅱ	1	30	→	→			
	看護の統合	看護管理	1	15				→	→
		看護倫理	1	30				→	→
		医療安全Ⅰ	1	30			→		
		医療安全Ⅱ	1	30				→	→
臨地実習		基礎看護学Ⅰ実習	1	45	→	→			
		基礎看護学Ⅱ実習	2	90	→	→			
		地域・在宅看護論実習	2	90				→	→
		成人看護学実習	2	90			→	→	→
		経過別看護Ⅰ実習	2	90			→	→	→
		経過別看護Ⅱ実習	2	90			→	→	→
		老年看護学Ⅰ実習	2	90			→	→	→
		老年看護学Ⅱ実習	2	90			→	→	→
		小児看護学実習	2	90			→	→	→
		母性看護学実習	2	90			→	→	→
		精神看護学実習	2	90				→	→
		看護の統合と実践実習	2	90				→	→
	小計	66	2235						
総計		104	3060						

	科目	単位 (総時間)	講義 時間	試験 回数	講 師	詳細科目名	点数枠	試験(評価)		
								1年	2年	3年
基礎分野	生活科学	1(15)	15	1	出口 博之		100	○		
	教育学	1(30)	30	1	下地 貴樹		100	○		
	情報科学	2(60)	60	1	黒坂 知絵		100	○		
	情報管理	1(15)	15		黒坂・小林		100		○	
	生命倫理	1(30)	30	1	吉原・村上		100	○		
	心理学	1(30)	30	1	皆元 司		100	○		
	人間関係論	1(30)	30	1	古野 薫		100	○		
	社会学	1(30)	30	1	阪井 俊文		100	○		
	英語 I	2(45)	45	2	安丸 雅子	英語 I－1	100	○		
						英語 I－2	100	○		
	英語 II	2(30)	30	1	安丸 雅子		100		○	
	人間と文化活動	1(30)	12	1	植田 佐世子	音楽	100	○		
			6	1	荒木 正見	描画	100	○		
			12	1	尾中 美穂	体育	100	○		
専門基礎分野	解剖生理学 I	2(45)	45	2	片岡 真司	解剖生理学 I－1	100	○		
						解剖生理学 I－2	100	○		
	解剖生理学 II	2(45)	10	1	大仲 正太郎	解剖生理学 II	100	○		
			14	1		解剖生理学 II	100	○		
			22	1	片岡 真司	解剖生理学 II	100	○		
	看護形態機能学	1(15)	15		芹野・古田		100	○		
	生化学	1(15)	15	1	山内 豊和		100	○		
	微生物学	1(30)	30	1	吉岡 香絵		100	○		
	病理学(総論)	1(30)	30	1	下釜 達朗		100	○		
	看護の視点で病気をみる I	1(30)	8		永野 薫	循環機能障害の看護	100	○		
			10		亀田 裕美	運動機能障害の看護		○		
			8		梅木 恵利	呼吸機能障害の看護		○		
			2		鳥取 和代	内分泌・栄養代謝機能障害看護		○		
			2		豊永 真理子	腎機能障害の看護		○		
	看護の視点で病気をみる II	1(30)	8		梅木 恵利	感覚器機能障害の看護	100		○	
			6		工藤 加奈子	血液・造血器機能障害の看護			○	
			8		工藤 加奈子	消化機能障害の看護			○	
			4		櫻木・岩松	脳神経障害の看護			○	
			4		鶴留 文代	排尿・排便機能障害の看護			○	
	病理学 I	1(15)	8	1	石川 幹真	外科的治療の基礎	100			○
						消化器および腹部				
						頭部および頸部				
						肺および胸部				
						小児外科				
			4	1	中原 博正	女性生殖器疾患外科	100			○
			3	1	竹中 伊知郎	麻酔法について	100			○
	病理学 II	1(30)	10	1	鈴木 邦裕	呼吸器疾患	100		○	
			10	1	古賀 徳之	循環器疾患	100		○	
			6	1	土橋 卓也	高血圧	100		○	
			4	1	中村 滋郎	消化器疾患	100		○	
	病理学 III	1(30)	10	1	末永 賢也	運動器疾患	100		○	
			4	1	大仲 正太郎	腎疾患	100		○	
			8	1	中村宇大	内分泌・代謝疾患	100		○	
			4	1		アレルギー	100		○	
			4	1	森 雄二郎	眼科疾患	100		○	
	病理学 IV	1(15)	6	1	荒川 修治	神経・筋疾患	100			○
			6	1	山口 慎也	脳外科疾患	100			○
			3	1	梅野 好啓	耳鼻咽喉疾患	100			○
	病理学 V	1(15)	8	1	大穂 有恒	肝疾患	100			○
			3	1	田中 綾	血液疾患	50			○
			4	1	尾畑 紘史	泌尿器疾患	50			○
	薬理学 I	1(15)	15	1	後藤 渉	薬理学 I	100	○		
	薬理学 II	1(15)	15	1	後藤 渉	薬理学 II	100		○	
	栄養学	1(15)	15	1	中岡 寛		100	○		
	環境学	1(15)	15	1	田中 昭代		100	○		
	公衆衛生学	1(15)	15	1	中西 昌嗣		100			○
	社会保障	2(30)	15	1	藤岡 良幸	社会保障-1	100			○
			15	1	藤岡 良幸	社会保障-2				
	関係法規 I	1(15)	15	1	櫻庭 総	関係法規 I	100	○		
	関係法規 II	1(15)	15	1	櫻庭 総	関係法規 II	100			○

		科目	単位 (総時間)	講義 時間	試験 回数	講 師	詳細科目名	点数枠	試験(評価)		
									1年	2年	3年
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1(30)	30	1	芹野 恭子		100	○		
		看護研究Ⅰ	1(30)	30	1	永野・黒坂		100	○		
		看護研究Ⅱ	1(30)	30	1	藤田 直子		100			○
		看護安全	1(15)	15		小倉直美		100	○		
		生活援助方法論	2(90)	60	3	兼川・小倉・工藤	環境(40)・休息活動(30)・姿勢と移動(30)	100	○		
					1	兼川五月 他	清潔	100	○		
				16	1	小倉 直美	排泄	100	○		
				14	1	永野 薫	食事	100	○		
		ヘルスアセスメント	1(45)	13	1	古田 小雪	フィジカルアセスメント	100	○		
				18	1	梅木 恵利	フィジカルアセスメント(各論)	100	○		
				14	1	古田 小雪	コミュニケーション	100	○		
		看護過程方法論	1(30)	30	1	兼川 五月		100	○		
		治療処置別看護Ⅰ	1(45)	14	1	古田 小雪	薬物療法時の看護	100	○		
				10	1	中村 まい	輸液療法時の看護	100	○		
				10	1	山田 三千穂	創傷管理	100	○		
				10	1	木原 舞	酸素療法	100	○		
		治療処置別看護Ⅱ	1(45)	10	1	山口・山内	ME機器、麻酔の看護	100		○	
				10	1	亀田 裕美	放射線・化学療法の看護	100		○	
				13	1	永野 薫	診療・検査時の看護	100		○	
				12	1	相原 美加	臨床検査	100		○	
		リハビリテーション看護論	1(30)	30	1	香西哲也 他		100	○		
	地域在宅看護論	地域・在宅看護概論	1(15)	15	1	柳田・高松・丸尾		100	○		
		地域・在宅看護論Ⅰ	1(15)	15	2	柳田 美香		100		○	
		地域・在宅看護論Ⅱ	2(45)	45		柳田・小倉		100		○	
		地域・在宅看護論Ⅲ	1(30)	30	1	柳田・三輪		100			○
		地域・在宅看護論Ⅳ	1(15)	15	1	柳田 美香		100			○
	成人看護学	成人看護学概論	1(30)	30	1	梅木 恵利		100	○		
		成人看護学Ⅰ	1(45)	14	1	山口・中村	救急	100		○	
				31	1	兼川 五月	周手術期看護	100		○	
		成人看護学Ⅱ	1(30)	10	1	梅木 恵利	呼吸機能障害の看護	100	○		
				10	1	鳥取 和代	内分泌・栄養代謝機能障害看護	100	○		
				10	1	豊永 真理子	腎機能障害の看護	100	○		
		成人看護学Ⅲ	1(30)	20	1	永野 薫	循環機能障害の看護	100	○		
				10	1	杉山・亀田	運動機能障害の看護	100	○		
		成人看護学Ⅳ	1(30)	16	1	櫻木・岩松	脳神経障害の看護	100		○	
				10	1	鶴留 文代	排尿・排便機能障害の看護	100		○	
				4	1	梅木 恵利	感覚器機能障害の看護	100		○	
		成人看護学Ⅴ	1(30)	14	1	首藤・小倉	終末期・がん看護	100		○	
				12	1	工藤 加奈子	消化機能障害の看護	100		○	
				4	1	工藤 加奈子	血液・造血器機能障害の看護	100		○	
	老年	老年看護学概論	1(30)	20	1	宮川 智子		100	○		
				10	1	佐土島・大西		100	○		
		老年看護学Ⅰ	2(30)	30	1	宮川 智子		100		○	
		老年看護学Ⅱ	1(30)	30	1	宮川・内村		100		○	
	小児	小児看護学概論	2(45)	45	2	藤田 直子 秦 愛美		100 100	○ ○		
		小児看護学Ⅰ	1(30)	30	1	藤田 直子		100		○	
		小児看護学Ⅱ	1(30)	30	1	魚住 友彦		100		○	
	母性	母性看護学概論	1(30)	14	1	福田 詩子		100	○		
				16	1	前川 礼子		100	○		
		母性看護学Ⅰ	1(15)	10	1	福田 詩子		100		○	
				5	1	後藤 元子		100		○	
		母性看護学Ⅱ	2(60)	26	1	廣渡 理枝	妊娠期・分娩期	100		○	
				18	1	曾川 幸恵	産褥期・新生児	80		○	
				16	1	福田 詩子	看護過程	20		○	
	精神	精神看護学概論	1(15)	15	1	中本 亮		100		○	
		精神看護学Ⅰ	2(45)	14	1	原賀 憲亮	疾患、治療、検査	100		○	
				14	1	桑野 浩明	精神療法の実践	100		○	
				17	1	工藤・古田	看護	100		○	
		精神看護学Ⅱ	1(30)	30	1	工藤・古田		100			○
	看護の統合と実践	看護管理	1(15)	7	1	倉地・山口		100			○
				8	1	柿坂 静香		100			○
		看護倫理	1(30)	12	1	荒木 正見		100			○
				18	1	芹野 恭子		100			○
		医療安全Ⅰ	1(30)	30	1	宮川 智子他		100		○	
		医療安全Ⅱ	1(30)	30	2	小倉 直美他	医療安全Ⅱ-1	100			○
							医療安全Ⅱ-2	100			○

基礎分野（科学的思考の基盤）

基礎力科（付予的必修の基礎）						
授業科目	生活科学		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	出口博之		1 単位 15 時間	講義	1 年 前期	
実務経験	工学博士 大学名誉教授					
授業の概要	生活の中における物理・化学の基本的知識を学ぶ。					
授業の到達目標	看護技術の原理に活用し理解することができる。					
授業計画 (全 8 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数	時間					
		1. 身体／身体ケアに関する物理学			講義	出口
1	2	1)力について				
2	2	2)単位について				
		3)トルクの知識				
3	2	4)安定・不安定				
		2. 検査・治療・処置に関する物理学				
4	2	1)圧力の基礎知識				
		2)大気圧について				
5	2	3)血圧に関する知識				
6	2	4)酸素ポンベについて				
7	2	5)酸／アルカリとpHの関係				
		6)濃度・溶解度について				
8	1	まとめ				
学習課題 (事前・事後)	特になし					
成績評価の方法	各単元終了後に確認テスト及び終講時に筆記試験を行う。					
テキスト * 参考文献等	平田雅子 完全版ベッドサイドを科学する 学研					
学生へのメッセージ						
備考						

基礎分野（科学的思考の基盤）

基礎力型（科学的思考の養成）		教育学	単位数	授業形態	開講時期	
授業科目			1 単位	講義・演習	1 年	
担当教員		下地貴樹	30 時間		後期	
実務経験		非常勤講師				
授業の概要		「教育とはどのように行われるべきか」というテーマで授業を展開することが本筋となる。 この授業では、「教育とは何か」「なぜ教育するのか」「教育と人間関係」などを幅広く扱い、人間形成について考えていく。その際に、グループワークや全体討議などを通して現代教育の課題の一つである思考・表現・判断に関して捉え、実践的態度の形成を図る。				
授業の到達目標		1. 授業を構成する要素として教師、生徒、教材が存在し、その背景について考えることができる。 2. 教育とはどのように行われるべきかを自身の体験や講義を通して考えることができる。 3. 発表たグループワークを通して「伝える」ことを考えるとともに実践することができる。 4. レポート課題やグループワークの中で、論理的思考や討議法・メモ技術などを身に付けることができる。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	オリエンテーション 自己紹介・他己紹介についてのワークショップ			講義	下地
2	2	子どもについて:子どもの発達 教育はいつから始まるか				
3	2	学校について:学校とは何か 学歴社会の是非				
4	2	教師について:教師という存在 良い教師・悪い教師				
5	2	児童生徒について:いつまで子どもなのか 良い生徒・悪い生徒とは				
6	2	「大人」と「子ども」という視点から見る教育場面				
7	2	「教師」と「生徒」という視点から見る教育場面:子どもを教育				
8	2	教材について 素材を教材化する 教育効果を高めるために				
9	2	教材を作る—生徒の視点・教師の視点をつなげる				
10	2	学力とは何か:ゆとり教育—詰め込み教育—脱ゆとり				
11	2	評価の意味について 評価の仕組み・公平な評価とは				
12	2	教育と環境:家庭背景と社会構造、学級内での問題について				
13	2	授業をつくる:授業はいかにして作られるのか・指導案作成				
14	2	授業をする:授業プレゼン・自分たちが望む授業				
15	2	総括:教育とは何か				
学習課題 (事前・事後)		1. 事前学習課題として発表用の資料を作成する。そのための資料は随時提供する。 2. 事後学習として事後レポートを課す。				
成績評価の方法		1. グループ活動への参加度 20%:(司会・書記としての活動 10% 意見の提出・内容の発展 10%) 2. グループ発表 30%:(発表資料 15% 発表者の態度 10% 受講者の反応 5%) 3. ミニレポート 10%:(意見の論理性・わかりやすく記載しているか) 4. 終講試験 40%				
テキスト		特に指定なし				
* 参考文献等						
学生へのメッセージ		グループワークが主になります。課題への取り組みや資料準備などを分担して行わなければ、大変な作業になりますので、連携を大切にしてください。また、わからないことや質問については遠慮せずに尋ねてください。				
備考						

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報科学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	黒坂 知絵		2 単位 60 時間	講義・演習	1 年 前期
実務経験	工学博士 大学准教授				
授業の概要	膨大な情報を扱う必要のある医療従事者として、ICTの基本概念や危険性を十分に理解し効率よく理論的にデータを整理することは重要である。情報処理および統計学を通して、看護研究に応用できる基礎的理論を学習し、科学的思考力を高める。				
授業の到達目標	統計学では、公式をただ覚えるのではなく、多くの手法を理解して研究の解析ツールとして利用できるよう学習する。情報処理では、医療現場で活用する上で必要最低限となるコンピュータやネットワークの基本を押さえ、演習を通じてMS-Officeの利用方法を習得する。また、看護研究Ⅰと連動し看護研究の実施方法や研究計画についても触れ臨床現場の職場環境改善や問題解決を円滑に実施できるよう、論理的思考に基づいてコンピュータを利用して統計解析が行えるようになることを目指す。				
授業計画 (全 30 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	パソコン操作の基本 オリエンテーション		演習	教材担当
2	2	1. 統計学とは何か、保健統計		講義	黒坂
3	2	1) データの基本概念、計算や公式の練習(数学の復習)			
4	2	2) データの収集方法、データの整理			
5	2	3) 代表値			
6	2	4) 散布度			
7	2	5) 相関係数			
8	2	6) 確率分布			
9	2	7) 検定、推定とは			
10	2	8) 平均値の検定1			
11	2	9) 平均値の検定2			
12	2	10) 分散の検定			
13	2	11) 相関係数、比率の検定			
14	2	12) χ^2 検定(適合度の検定)			
15	2	13) χ^2 検定(独立性の検定)			
16	2	14) その他、ノンパラメトリック検定			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		次頁参照			
テキスト		次頁参照			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ		次頁参照			
備考		次頁参照			

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目		情報科学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		黒坂 知絵		2 単位 60 時間	講義・演習	1 年 前期
実務経験		工学博士 大学准教授				
授業の概要		前頁参照				
授業の到達目標		前頁参照				
授業計画 (全 30 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
17	2	2. パソコンの基本操作			講義・演習	黒坂
18	2	1)医療情報概論				
19	2	2)MS Wordの基本操作				
20	2	3)文書の作成				
21	2	4)図表の扱い方				
22	2	5)MS PowerPointの基本操作				
23	2	6)効果的なプレゼン方法				
24	2	7)MS Excelの基本操作				
25	2	8)数式、関数の使い方				
26	2	9)グラフの描き方				
27	2	10)データベースの使い方				
28	2	11)まとめ、論文の書き方				
29	2	12)検定練習				
30	2	13)検定練習				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等		看護師・保健師をめざすひとのやさしい統計処理－保健・医療データの活用－(実教出版)				
学生へのメッセージ		統計学は難しい印象を受けますと思いますが、できるだけ楽しく学習ができるように工夫しています。コンピュータの基本操作、データ加工や簡単な検定処理も学習します。意欲的に取り組んでください。看護研究Ⅰの授業と連動して行いますので、研究に関する相談も受けます。				
備考		コンピュータ演習に使用するため、USBを学校で購入します。 円滑に演習が行えるようパソコン操作について事前に調査を行います。 統計学の講義では、電卓(ルートの計算ができるもの)を毎回準備をしてください。				

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報管理		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	黒坂知絵 ¹⁾ 小林誠 ²⁾		1 単位 15 時間	講義・演習	2年 前期	
実務経験	1)工学博士 大学准教授 2)医療情報技師					
授業の概要	ICT化を図る上で基本となる情報ネットワークの活用と情報収集・情報発信の方法を学ぶ。 電子カルテを利用するために必要な基本的な操作技術、安全管理と個人情報保護について実践を学ぶ。					
授業の到達目標	看護学生として「情報とはなにか」を知り、その「活かし方」と「守り方」の両方を学び、個人情報保護の視点で臨地実習で活用できる。					
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当	
回数	時間					
1	2	1. 情報と情報社会		講義	黒坂	
		1)情報とは				
		2)情報社会とは				
		3)インターネットの仕組みとネットワーク				
2	2	2. 情報の収集・発信方法				
		1)情報通信技術 (ICT)とその活用				
		2)コンピューターリテラシーとセキュリティー				
		①コンピューターに関する基礎知識 ②インターネットに関する基礎知識と注意点				
3	2	3. 看護と情報				
		1)情報社会と看護				
		2)地域医療福祉における情報システム				
		3)地域・在宅看護における情報通信技術 (ICT) の活用				
4	1	4. 臨地実習におけるトラブル事例について考える				
5	2	5. 医療における情報システム				
		1)医療情報の種類 標準化と電子化				
		2)病院情報システムとは				
		3)病院情報システムと記録の仕方				
		次頁へ				
学習課題 (事前・事後)	特になし					
成績評価の方法	次頁参照					
テキスト * 参考文献等	次頁参照					
学生へのメッセージ	次頁参照					
備考						

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報管理		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	黒坂知絵 ¹⁾ 小林誠 ²⁾		1 単位 15 時間	講義・演習	2年 前期
実務経験	1)工学博士 大学准教授 2)医療情報技師				
授業の概要	ICT化を図る上で基本となる情報ネットワークの活用と情報収集・情報発信の方法を学ぶ。 電子カルテを利用するために必要な基本的な操作技術、安全管理と個人情報保護について実践を学ぶ。				
授業の到達目標	看護学生として「情報とはなにか」を知り、その「活かし方」と「守り方」の両方を学び、個人情報保護の視点で臨地実習で活用できる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
6	2	6. 情報倫理と個人情報保護	講義	小林	
		1)情報倫理とは			
7	2	2)診療情報の開示			
		3)個人情報の保護	講義・演習		
8	2	7. 電子カルテの取り扱い			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		課題レポート100点（黒坂先生 50点 小林先生 50点）			
テキスト * 参考文献等		系統看護講座 看護情報学 医学書院			
学生へのメッセージ		とても便利で皆さんの身近にあるインターネットですが、医療・看護の中で安全に正しく情報を活用するための基本とルールについて学びます。			
備考					

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	生命倫理	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	吉原雅子	1 単位 30 時間	講義	1 年 後期
実務経験	大学准教授			
授業の概要	人間の尊厳を基盤にした生命倫理について考え、医療に携わるものとしての価値観を形成する基礎を学ぶ。			
授業の到達目標	生命倫理で扱う基本的な事柄や用語について理解する。その上で、現代の医療（特に終末期医療、人工妊娠中絶、臓器移植等）が抱える倫理的問題について自分なりに考え、議論や論述ができる力を身につける。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容		授業方法	担当
回数 時間				
1	2	1. 生命倫理とは	講義	吉原
2	2	2. SOLとQOL、パターナリズムとインフォームド・コンセント		
3	2	3. ホスピスと緩和ケア		
4	2	4. 尊厳死と安楽死		
5	2	5. 死の自己決定権		
6	2	6. 安楽死制度の是非をめぐって		
7	2	7. 安楽死 まとめ		
8	2	8. 生殖補助医療		
9	2	9. 人工妊娠中絶		
10	2	10. いのちの選別の選別		
11	2	11. 選択的中絶の是非をめぐる議論、生殖医療 まとめ		
12	2	12. 脳死と臓器移植		
13	2	13. 臓器移植の問題点と制度の選択		
14	2	14. 臓器移植 まとめ		
15	2	15. 生きる意味について		
学習課題 (事前・事後)	必要時、適宜指示をする			
成績評価の方法	筆記試験 100点			
テキスト * 参考文献等	適宜、授業資料を配布する。			
学生へのメッセージ	それぞれの問題について、解決を急がず、自分なりにじっくりと考えてみてください。			
備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

基礎分野（人間の生活・社会の理解）					
授業科目	心理学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	皆元 司		1 単位 30 時間	講義・ワーク	1 年 後期
実務経験	臨床心理士 公認心理師 スクールカウンセラー				
授業の概要	発達と心理、行動と心理、感覚・知覚と心理について学び、看護の対象である人間を理解する。				
授業の到達目標	自分を理解し、他者を理解するために必要な心理学の知識を身につける。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
1	2	1. オリエンテーション	講義・ワーク	皆元	
2	2	2. 心理学とは			
3	2	3. 医療・看護と心理学			
4	2	4. 感覚と知覚			
5	2	5. 記憶			
6	2	6. 学習			
7	2	7. 言語・知能			
8	2	8. 発達（前半）			
9	2	9. 発達（後半）			
10	2	10. 性格・パーソナリティ			
11	2	11. 感情と動機づけ			
12	2	12. 社会と集団			
13	2	13. ストレスと適応			
14	2	14. 心理臨床（前半）			
15	2	15. 心理臨床（後半）			
学習課題 (事前・事後)	特になし				
成績評価の方法	筆記試験(85%)＋授業感想提出(15%)で評価する。				
テキスト * 参考文献等	適宜、資料を配付する。引用文献・参考文献は資料に提示する。				
学生へのメッセージ	皆さんにとって「心理学」とはどのようなイメージでしょうか。 授業内容によっては、他の科目と重なるところもあります。自己理解・他者理解のために、積極的に参加してください。				
備考					

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	人間関係論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	古野薫		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験	公認心理士 スクールカウンセラー				
授業の概要	自分を知り他人を理解し、人間関係を築くための基本を学ぶ。カウンセリングの基礎を学ぶ。				
授業の到達目標	看護実践を行なう際に必要な人間関係を形成する基礎知識について理解できる。コミュニケーション技術やカウンセリングの理論及びその技法について理解できる。				
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当
回数					
1	2	1. 人間関係とは	講義	古野	
2	2	2. 人間関係論とは			
3	2	3. 他人感情について			
4	2	4. 対人関係の成立			
5	2	5. 態度と対人行動			
6	2	6. 集団			
7	2	7. 集団 (DVD)			
8	2	8. コミュニケーションとは			
9	2	9. 家族関係論			
10	2	10. コーチング			
11	2	11. アサーティブコミュニケーション			
12	2	12. 様々な問題と対応 ①			
13	2	13. 様々な問題と対応 ②			
14	2	14. 様々な問題と対応 ③			
15	2	15. 対人援助職者として大切なことについて			
学習課題 (事前・事後)	特になし				
成績評価の方法	筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等	適宜、授業資料を配布する。				
学生へのメッセージ					
備考					

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

基礎分野（人間の生活・社会の理解）					
授業科目	社会学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	阪井俊文		1 単位 30 時間	講義	1 年 後期
実務経験	非常勤講師				
授業の概要	我々が生きる「現代社会」がどのような特徴を有しているのかを解説し、「社会的存在」としての人間について理解を深める。 社会学の理論を基にして、現代の医療のあり方や、人々の健康に関わる問題について考察する。				
授業の到達目標	社会学的な視点を理解することで、常識にとらわれることなく物事を多面的・客観的に捉える洞察力を身につける。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 社会学とは何か 社会学を学ぶ意義		講義	阪井
2	2	2. 現代社会の特徴 「自由」と「自己責任」			
3	2	3. 現代社会の特徴 大きな物語の消滅			
4	2	4. 現代社会の特徴 消費社会化			
5	2	5. 現代社会とジェンダー			
6	2	6. 「家族」の変遷			
7	2	7. 社会階層と格差			
8	2	8. 高齢化とソーシャルワーク			
9	2	9. 医療社会学			
10	2	10. 現代社会と医療			
11	2	11. 現代社会と健康			
12	2	12. 医療・福祉従事者の現状と課題			
13	2	13. グローバル化と医療			
14	2	14. 「死」の社会学			
15	2	15. まとめ レポート課題の説明			
学習課題 (事前・事後)	概ねテキストに沿って進めていくため、あらかじめテキストに目を通しておくこと				
成績評価の方法	講義内で実施する小レポートおよび終講レポートで評価する。				
テキスト * 参考文献等	阪井俊文 濱野健 須藤廣(編)「看護を学ぶ人のための社会学」 明石書店				
学生へのメッセージ	社会学は、高校の「社会科」とは全く別の学問です。「常識を疑う」という思考に戸惑うかもしれませんが、視野を広げることの面白さを感じてください。				
備考					

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

基礎分野「人間の生活・社会の理解」	授業科目	英語 I	単位数	授業形態	開講時期
	担当教員	安丸雅子	2 単位 45 時間	講義	1 年 前期
	実務経験	非常勤講師			
	授業の概要	基礎的な医療英単語と実践的な英会話を学びます。			
	授業の到達目標	1. 医療英単語を習得する過程で、自分なりの暗記方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学ぶ。 2. 国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。			
	授業計画 (全 23 回)	授業内容	授業方法	担当	
	回数 時間				
		【英語 I - 1】	講義・演習	安丸	
1	1	1. 講義概要・実力テスト			
2	2	2. 会話表現1「受付」			
3	2	3. 「受付」確認 体の部位			
4	2	4. 体の部位の確認、 骨格			
5	2	5. 骨格の確認 臓器			
6	2	6. 臓器の確認 心臓			
7	2	7. 心臓の確認 脳 症状			
8	2	8. 心臓と脳の確認 症状			
9	2	9. 診療科			
10	2	10. 院内の案内			
11	2	11. 中間面接試験			
		【英語 I - 2 】			
12	2	12. 様々な病気			
13	2	13. 病気の確認			
14	2	14. 症状と病気の確認			
15	2	15. 会話表現2「健康診断①」			
		次頁参照			
	学習課題 (事前・事後)				
	成績評価の方法	次頁参照			
	テキスト * 参考文献等	次頁参照			
	学生へのメッセージ				
	備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

基礎力型（人間の生活・社会の理解）					
授業科目	英語 I		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	安丸雅子		2 単位 45 時間	講義	1 年 前期
実務経験	非常勤講師				
授業の概要	基礎的な医療英単語と実践的な英会話を学ぶ。				
授業の到達目標	1. 医療英単語を習得する過程で、自分なりの暗記方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学ぶ。 2. 国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。				
授業計画 (全 23 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
16	2	16. 会話表現3「健康診断②」		講義・演習	安丸
17	2	17. 会話表現2・3			
18	2	18. 検査 会話表現4「検査指示①」			
19	2	19. 会話表現5「検査指示②」			
20	2	20. 薬品 会話表現4・5			
21	2	21. 会話表現6「薬の指示」			
22	2	22. 会話表現 まとめ			
23	2	23. 期末面接試験			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		1. 英語 I-1 評価 中間面接試験(20点) 中間筆記試験(70点) 平常点10点 2. 英語 I-2 評価 期末面接試験(20点) 期末筆記試験(70点) 平常点10点 最終評価は、上記1. 2の評価点の平均とする。			
テキスト		適宜、授業資料を配布する。			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ					
備考					

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	英語Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	安丸雅子		2 単位 30 時間	講義	2年 前期～後期
実務経験	非常勤講師				
授業の概要	1年生の内容を総復習しつつ、さらに深い知識を身に付ける。				
授業の到達目標	医療英単語を習得する過程で、自分なりの暗記方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学ぶ。また、国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 受付と院内の案内 会話表現1 旧 Lesson3・4 身体と骨格 Lesson2・プリント		講義 演習	安丸
2	2	2. 登録 会話表現2 脳・心臓 旧 Lesson1			
3	2	3. 内臓 旧 Lesson2 プリント			
4	2	4. 手術 旧 Lesson11			
5	2	5. 手術 会話表現7			
6	2	6. 健康診断 会話表現2・3 旧 Lesson5. 6			
7	2	7. スタッフ 病気			
8	2	8. スタッフ 病気			
9	2	9. 検査 旧 Lesson14 会話表現4			
10	2	10. 検査 会話表現5			
11	2	11. 器具、携行・処置用品 旧 Lesson12			
12	2	12. 器具、携行・処置用品			
13	2	13. 器具、携行・処置用品 会話表現8 試験概要			
14	2	14. 医療カルタ			
15	2	15. 面接試験		面接	
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		筆記試験(70点)＋面接試験(20点)＋平常点(10点)の合計100点満点で評価する。			
テキスト		First Aid ! English for Nursing「看護英語への総合的アプローチ」(樋口晶彦著 金星堂)と、1年次に使用していたEnglish for Nurses「看護系学生のための実践英語」(山中マーガレット他著 朝日出版)。 ※1年次に配布した小テスト以外のプリント(骨格 臓器 心臓 脳 症状 病名 会話表現例文1～6も使用する。			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ					
備考					

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	人間と文化活動		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	尾中美穂 ¹⁾ 【体育】 植田佐世子 ²⁾ 【音楽】 荒木正見 ³⁾ 【描画】		1 単位 30 時間	演習・実技	1 年 前期～後期
実務経験	1) 2) 3) 非常勤講師				
授業の概要	1. 運動、スポーツに興味を持ち、生涯スポーツの実践につなげる。 2. 合唱を通して、他者と協調して自己表現することを学び協調性を高める。 3. 描画表現を体験し、自己を知る。				
授業の到達目標	1. 自分にフィットした身体運動の効果を体得し、心身ともに充実したライフスタイルを送ることができる。 2. 文化芸術活動を通して感性を高め自己表現の方法を知る。 3. グループ活動、全体活動を通して、リーダーシップ、メンバーシップを身につける。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		【体育】		演習・実技	尾中
1	2	1. オリエンテーション・レクレーション			
2	2	2. ドッチビー			
3	2	3. バレーボール			
4	2	4. バトミントン(ダブルス)			
5	2	5. 交流会に向けての練習(種目別)			
6	2	6. レクリエーションスポーツ			
		【音楽】			植田
7	2	7. 合唱			
8	2	8. 合唱			
9	2	9. 合唱			
10	2	10. 合唱			
11	2	11. 合唱			
12	2	12. 合唱			
		【描画】			荒木
13	2	13. 描画			
14	2	14. 描画			
15	2	15. 描画			
学習課題 (事前・事後)	なし				
成績評価の方法	1. 体育（授業態度 80点 技能 20点） 2. 音楽（授業参加度、他 100点） 3. 描画（レポート評価 100点） 最終評価は体育・音楽・描画の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等	なし				
学生へのメッセージ	実技の授業であり、主体的に行動、活動してほしい。 心と身体は繋がっていることを実感し、表現力を身につけてほしい				
備考					

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学 I		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	片岡真司		2 単位 45 時間	講義	1 年 前期
実務経験	解剖学助教				
授業の概要	看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるために人体の構造や機能について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 人体の発生・構造・生命を保つために必要な機能を理解する。 2. 正常な消化器・呼吸器・循環器の構造と機能を理解する。				
授業計画 (全 23 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識		講義	片岡
1	2	1. 構造からみた人体			
2	2	2. 人体の様々な器官			
3	2	3. 細胞膜の構造 分化した細胞が作る組織①			
4	2	4. 細胞膜の構造 分化した細胞が作る組織②			
		第2章 栄養の消化と吸収			
5	2	1. 口・咽頭・食道の構造と機能			
6	2	2. 胃・小腸・大腸の構造と機能			
7	2	3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能			
8	2	4. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 腹膜の構造			
		第3章 呼吸と血液の働き			
9	2	1. 呼吸器の構造と機能			
10	2	2. 呼吸運動と調節のメカニズム			
11	2	3. 呼吸気量とガス交換			
12	2	4. 血液 ①			
13	2	5. 血液 ②			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学 I		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	片岡真司		2 単位 45 時間	講義	1 年 前期
実務経験	解剖学助教				
授業の概要	看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるために人体の構造や機能について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 人体の発生・構造・生命を保つために必要な機能を理解する。 2. 正常な消化器・呼吸器・循環器の構造と機能を理解する。				
授業計画 (全 23 回)	授業内容			授業方法	担当
回数					
		第4章 血液の循環とその調整	講義	片岡	
14	2	1. 心臓の構造と働き			
15	2	2. 刺激伝導系と心電図			
16	2	3. 血管の種類と分布 血管の構造 肺循環と体循環			
17	2	4. 肺循環の血管、体循環の動脈、体循環の静脈			
18	2	5. 血液循環の調節			
		第6章 内臓機能の調節			
19	2	1. 内臓機能の調節			
20	2	2. 内分泌系による調節 ①			
21	2	3. 内分泌系による調節 ②			
		第9章 外部環境からの防御			
22	2	1. 皮膚の構造と機能			
23	1	まとめ			
学習課題 (事前・事後)	講師より適宜指示あり				
成績評価の方法	1. 解剖生理学 I-1 1回目～12回目 筆記試験(80点) 小テスト(10点) 課題(10点) 2. 解剖生理学 I-2 13回目～23回目 筆記試験(80点) 小テスト(10点) 課題(10点) 最終評価は、上記1. 2の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等	解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
学生へのメッセージ	人間のからだのしくみには生命を維持するために必要な働きと自然に備わっている不思議な力があります。疑問を残さず一つ一つ確実に学んでいきましょう。				
備考					

専門基礎分野（人体の構造と機能）

解剖生理学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
授業科目				
担当教員	片岡真司 ¹⁾ 大仲正太郎 ²⁾ 岡田卓也 ³⁾	2 単位 45 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	1)解剖学助教 2)腎臓内科医師 3)脳神経内科医師			
授業の概要	看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるため、人体の構造や機能について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 人体の骨・筋・神経系の構造を理解する。 2. 情報の伝達と経路および外部環境の防御および体液の調整について理解する。			
授業計画 (全 23 回)	授業内容		授業方法	担当
回数	時間			
		第9章 外部環境からの防御	講義	片岡
1	2	1. 生体の防御機構		
		第7章 身体の支持と運動		
2	2	1. 人体の骨格		
3	2	2. 骨の連結		
4	2	3. 骨格筋 体幹の骨格と筋		
5	2	4. 上肢・下肢の骨格と筋		
6	2	5. 頭頸部の骨格と筋		
7	2	6. 筋の収縮 運動と代謝		
		第10章 生殖・発生と老化のしくみ		
8	2	1. 男性生殖器 女性生殖器		
9	2	2. 受精と妊娠・分娩 胎児の血液循環		
10	2	3. 成長と老化		
11	2	解剖見学		
		第5章 体液の調節と尿の生成		
12	2	1. 排泄路		
13	2	2. 尿細管の構造と機能		
		次頁参照		
学習課題 (事前・事後)	次頁参照			
成績評価の方法	次頁参照			
テキスト * 参考文献等	次頁参照			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目		解剖生理学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		片岡真司 ¹⁾ 大仲正太郎 ²⁾ 岡田卓也 ³⁾		2 単位 45 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験		1)解剖学助教 2)腎臓内科医師 3)脳神経内科医師				
授業の概要		看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるため、人体の構造や機能について学ぶ。				
授業の到達目標		1. 人体の骨・筋・神経系の構造を理解する。 2. 情報の伝達と経路および外部環境の防御および体液の調整について理解する。				
授業計画 (全 23 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
14	2	3. 尿の生成・体液			講義	大仲
15	2	4. Kの異常と酸塩基平衡				
16	2	5. 尿の異常				
		第8章 情報の受容と処理				
17	2	1. 神経系の構造と機能				
18	2	2. 脳と脊髄				
19	2	3. 脳神経				
20	2	4. 脊髄神経伝導路				
21	2	5. 脳の高次機能				
22	2	6. 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚				
23	2	7. 味覚と嗅覚 疼痛				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		1. 片岡 筆記試験(80点)+小テスト(10点)+課題(10点) 2. 大仲 筆記試験100点 3. 脳神経 筆記試験100点 最終評価 1. 2. 3の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等		解剖生理学 人体の構造と機能1 (医学書院) 看護につなげる 形態機能学 メヂカルフレンド社				
学生へのメッセージ		人間のからだの仕組みを学ぶ基礎となる科目です。正常と異常は連続しており、正常がわかれば異常がわかり、異常がわかれば正常がわかるものです。覚えることが多いですが、しっかり学習していきましょう。				
備考						

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	看護形態機能学～いのちを支えるからだの仕組み～		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	芹野 恭子 ¹⁾ ・古田 小雪 ²⁾		1 単位 15 時間	講義	1 年 前～後期
実務経験	1) 2) 看護師 看護教員				
授業の概要	解剖生理学で学んだ知識を基本として、人体のもつ内部恒常性の維持、調整機能の理解を深め、疾患及び病態生理の理解に関連づける。				
授業の到達目標	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を理解して、呼吸する、食物を摂取する、排泄する、眠る(休息)という日常生活と生命維持の関係を恒常性維持の視点から見直し、人間のからだの仕組みの正常を学ぶ。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 看護形態機能学の理解と活用	講義		芹野
2	2	2. 病態生理用紙の書き方			
3	2	3. 生活行動とからだ			
4	2	4. 内部環境と恒常性の維持			
5	2	5. 酸素と二酸化炭素の恒常性			古田
6	2	6. 血糖値と体温の恒常性			
7	2	7. 骨疾患をケアの視点でみつめる			
8	1	8. 看護形態機能学まとめ			
学習課題 (事前・事後)	解剖生理学の復習を行い、授業後の課題に取り組んで下さい。				
成績評価の方法	授業態度と課題で評価とする。				
テキスト * 参考文献等	看護につながる 形態機能学 メヂカルフレンド社				
学生へのメッセージ	人間のからだのしくみは本当によくできています。今生きている自分のからだがどうなっているのか理解することで看護につながります。				
備考					

授業科目	生化学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	山内豊和	1 単位 15 時間	講義	1 年 前期
実務経験	薬剤師			
授業の概要	生物を構成・生産する物質の構造と機能や代謝について学ぶ。			
授業の到達目標	生物を構成・生産する物質の構造と機能や代謝について学び、生体がどのような化合物で成り立っているか理解する。さらに診断・治療への関連について理解する。			
授業計画 (全 8 回)	授業内容		授業方法	担当
回数	時間			
1	2	1. 生体成分の概要 代謝反応概要 ①	講義	山内
2	2	2. 生体成分の概要 代謝反応概要 ②		
3	2	3. 消化、異化反応の概要 ③		
4	2	4. 生体成分(糖質) 糖・コレステロール代謝		
5	2	5. 糖質代謝		
6	2	6. 脂質代謝 ①		
7	2	7. 脂質代謝 ② 蛋白質代謝		
8	1	まとめ		
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験 100点			
テキスト	専門基礎分野 生化学(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目		微生物		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		吉岡 香絵		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験		大学助教				
授業の概要		微生物とはどのようなものか、どのような病気をおこすのか、またそれに対してどのように対処すべきかを				
授業の到達目標		微生物学の特徴と生体に及ぼす影響及び宿主の免疫反応を理解し、微生物感染症やその予防・治療の理解に役立てる。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 微生物の基礎 微生物と微生物学 細菌の性質			講義	吉岡
2	2	2. ウィルスの性質				
3	2	3. 感染と感染症				
4	2	4. 感染に対する生体防御機構 ①				
5	2	5. 感染に対する生体防御機構 ②				
6	2	6. 感染に対する生体防御機構 ③				
7	2	7. 滅菌と消毒				
8	2	8. 感染症の検査と診断				
9	2	9. 感染症の治療				
10	2	10. 病原細菌と細菌感染症 ①				
11	2	11. 病原細菌と細菌感染症 ②				
12	2	12. 病原細菌と細菌感染症 ③				
13	2	13. 病原ウィルスとウィルス感染症 ①				
14	2	14. 病原ウィルスとウィルス感染症 ②				
15	2	15. まとめ				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等		専門基礎分野 微生物学 医学書院				
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学(総論)		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	下釜達朗		1 単位 30 時間	講義	1 年 後期
実務経験	医師 日本病理学会認定病理医 病理学検査				
授業の概要	病理学とは生体に起こる病的な状態(病気、疾病)の本態を追求する学問であり、病気の原因、発生機序、経過、そして転帰を一本の軸とし、関連する事項をも含めて論ぜられる。本講義においては病気を総論的視点から一般的通則として把握することを主眼とし、病理学総論で学ぶ疾病概念の組み立て方は、各臓器の病理学各論を学ぶための基礎となる。				
授業の到達目標	病因と病変の特徴を生理学、生化学、解剖学の知識と関連つけて理解し、病因が身体に及ぼす形態と機能の変化について理解することができる。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 病理学概論、病因論 生活習慣病		講義	下釜
2	2	2. 細胞・組織の障害と修復 細胞・組織の障害、萎縮、変性、壊死、アポトーシス			
3	2	3. 循環障害①			
4	2	4. 循環障害②			
5	2	5. 循環障害③			
6	2	6. 炎症 ①			
7	2	7. 炎症 ②			
8	2	8. 免疫 移植 ①			
9	2	9. 免疫 移植 ②			
10	2	10. 先天異常 遺伝子 老化 ①			
11	2	11. 先天異常 遺伝子 老化 ②			
12	2	12. 腫瘍 ①			
13	2	13. 腫瘍 ②			
14	2	14. 腫瘍 ③			
15	2	15. 総復習			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		筆記試験 100点			
テキスト * 参考文献等		1. 解剖生理学 医学書院 2. 専門基礎分野 病理学 医学書院			
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	看護の視点で病気をみるⅠ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	永野薫 ¹⁾ (循環機能障害) 亀田裕美 ²⁾ (運動機能障害) 梅木恵利 ³⁾ (呼吸機能障害) 豊永真理子 ⁴⁾ (腎機能障害) 鳥取和代 ⁵⁾ (内分泌・代謝機能障害)		1 単位 30 時間	講義	1 年 前～後期	
実務経験	1)2)3)看護師 看護教員 4)看護師 5)糖尿病看護認定看護師					
授業の概要	KOMIケア理論の疾病論に基づき、からだの仕組みと病気によって身体内部に何が起きているか、症状や疾患の理解を深め、病理学、成人看護学に関連づける。					
授業の到達目標	1. 解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。 2. 症状が人体に及ぼす影響を人体を守ろうとする回復システムに関連づけることができる。					
授業計画 (全15回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【循環機能障害の看護】				
1	2	1. 循環機能障害患者の理解・循環器の構造と機能・呼吸困難のメカニズム			講義	永野
2	2	2. 胸痛・ショックのメカニズム				
3	2	3. 動悸・不整脈のメカニズム				
4	2	4. 浮腫のメカニズム				
		【運動機能障害の看護】				
5	2	1. 骨や筋肉の構造と機能・運動機能障害患者の理解			講義 GW	亀田
6	2	2. グループワーク①大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折の看護				
7	2	3. グループワーク②大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折の看護				
8	2	4. グループワーク③大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折の看護				
9	2	5. グループワーク④大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折の看護				
		【呼吸機能障害の看護】				
10	2	1. 呼吸機能障害患者の理解・呼吸器の構造と機能・呼吸機能障害			講義	梅木
11	2	2. 呼吸異常のメカニズム				
12	2	3. 呼吸困難のメカニズム				
13	2	4. 咳嗽・喀痰・その他の症状のメカニズム				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)	次頁参照					
成績評価の方法	次頁参照					
テキスト * 参考文献等	次頁参照					
学生へのメッセージ	次頁参照					
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	看護の視点で病気をみるⅠ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	永野薫 ¹⁾ (循環機能障害) 亀田裕美 ²⁾ (運動機能障害) 梅木恵利 ³⁾ (呼吸機能障害) 豊永真理子 ⁴⁾ (腎機能障害) 鳥取和代 ⁵⁾ (内分泌・代謝機能障害)		1 単位 30 時間	講義	1 年 前～後期
実務経験	1)2)3)看護師 看護教員 4)看護師 5)糖尿病看護認定看護師				
授業の概要	KOMIケア理論の疾病論に基づき、からだの仕組みと病気によって身体内部に何が起きているか、症状や疾患の理解を深め、病理学、成人看護学に関連づける。				
授業の到達目標	解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。また、症状が人体に及ぼす影響を人体を守ろうとする回復システムを関連づけることができる。				
授業計画 (全15回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		【腎機能障害の看護】			
14	2	1. 腎臓・泌尿器の構造と機能 腎臓・泌尿器の疾病理解		講義	豊永
		【内分泌・代謝機能障害の看護】			
15	2	1. 内分泌の調節機能 内分泌機能障害		講義	鳥取
学習課題 (事前・事後)		病態生理用紙作成			
成績評価の方法		指示された疾患の病態生理用紙の提出 下記1～5 各20点 最終評価 1～5の評価点の合計 1.【循環機能障害:心筋梗塞・心不全】2.【運動機能障害:大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折】 3.【呼吸機能障害:慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息】4.【腎機能障害:腎不全】 5.【内分泌機能障害:糖尿病】			
テキスト *参考文献等		専門Ⅱ 循環器 医学書院 専門Ⅱ 運動器 医学書院 専門Ⅱ 呼吸器 医学書院 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院			
学生へのメッセージ		呼吸・循環・代謝・運動は人間が生きる上でとても大切な働きです。何らかの原因によって機能が障害されるメカニズムを理解して、症状や疾患の理解を深め病理学、成人看護学看護に繋げていきましょう。			
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

専門基礎力型（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	看護の視点で病気をみるⅡ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	梅木恵利 ¹⁾ (感覚器障害) 鶴留 文代 ²⁾ (排尿・排泄障害) 工藤 加奈子 ³⁾ (血液・造血器障害)(消化機能障害) 桜木ゆり ⁴⁾ ・岩松 香葉子 ⁵⁾ (脳神経障害)		1 単位 30 時間	講義・演習	1年 前～後期	
実務経験	1)3)看護師 看護教員 2)皮膚・排泄ケア認定看護師 4)5)摂食・嚥下障害看護認定看護師					
授業の概要	KOMIケア理論の疾病論に基づき、からだの仕組みと病気によって身体内部に何が起きているか、症状や疾患の理解を深め、病理学、成人看護学に関連づける。					
授業の到達目標	解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。また、症状が人体に及ぼす影響を人体を守ろうとする回復システムに関連づけることができる。					
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【感覚器障害患者の理解・感覚器の構造と機能・感覚機能障害】			講義・演習	梅木
1	2	1)視覚障害のメカニズムと看護				
2	2	2)視覚障害を有する患者の看護				
3	2	3)聴覚障害のメカニズムと看護				
4	2	4)嗅覚障害のメカニズムと看護			講義・演習	工藤
		【血液・造血機能障害患者の理解・血液・造血器の構造と機能・造血機能障害】				
5	2	1)貧血のメカニズム				
6	2	2)易感染状態のメカニズム				
7	2	3)出血傾向のメカニズム			講義・演習	工藤
		【消化機能障害患者の理解・消化器の構造と機能・消化機能障害】				
8	2	1)腹痛のメカニズム				
9	2	2)吐血・下血のメカニズム				
10	2	3)腹部膨満のメカニズム				
11	2	4)黄疸、腹水のメカニズム				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)	病態生理用紙作成					
成績評価の方法	指示された疾患の病態生理用紙の提出 下記1～5 各20点 最終評価 1～5の評価点の合計とする。 1.【感覚機能障害:眼・耳・咽頭・喉頭・皮膚の解剖図と白内障】 2.【血液・造血機能障害:急性骨髄性白血病】 3.【消化機能障害:肝硬変】 4.【脳神経機能障害:脳出血・脳梗塞】 5.【排尿・排便機能障害:大腸がん・膀胱がん】					
テキスト *参考文献等	専門Ⅱ 皮膚・眼・耳鼻咽喉 医学書院 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 専門Ⅱ 消化器 医学書院 専門Ⅱ 脳神経 医学書院 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院					
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目		看護の視点で病気をみるⅡ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員		梅木恵利 ¹⁾ (感覚器障害) 鶴留 文代 ²⁾ (排尿・排泄障害) 工藤 加奈子 ³⁾ (血液・造血器障害)(消化機能障害) 桜木ゆり ⁴⁾ ・岩松 香菜子 ⁵⁾ (脳神経障害)	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 前～後期
実務経験		1)3)看護師 看護教員 2)皮膚・排泄ケア認定看護師 4)5)摂食・嚥下障害看護認定看護師			
授業の概要		KOMIケア理論の疾病論に基づき、からだの仕組みと病気によって身体内部に何が起きているか、症状や疾患の理解を深め、病理学、成人看護学に関連づける。			
授業の到達目標		解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。また、症状が人体に及ぼす影響を人体を守ろうとする回復システムに関連づけることができる。			
授業計画 (全 15 回)		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
		【脳神経機能障害患者の理解・脳の構造と機能・脳神経機能障害】	講義・演習	桜木 岩松	
12	2	1)脳神経機能障害のメカニズム			
13	2	2)脳神経機能障害の看護			
		【排尿・排便機能障害患者の理解・排尿・排便の構造と機能・排尿・排便機能障害】	講義・演習	鶴留	
14	2	1)排尿・排便機能障害のメカニズム			
15	2	2)排尿・排便機能障害の看護			
学習課題 (事前・事後)		病態生理用紙作成			
成績評価の方法		指示された疾患の病態生理用紙の提出 下記1～5 各20点 最終評価 1～5の評価点の合計とする。 1.【感覚機能障害:眼・耳・咽頭・喉頭・皮膚の解剖図と白内障】 2.【血液・造血機能障害:急性骨髄性白血病】 3.【消化機能障害:肝硬変】 4.【脳神経機能障害:脳出血・脳梗塞】 5.【排尿・排便機能障害:大腸がん・膀胱がん】			
テキスト * 参考文献等		専門Ⅱ 皮膚・眼・耳鼻咽喉 医学書院 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 専門Ⅱ 消化器 医学書院 専門Ⅱ 脳神経 医学書院 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院			
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復の促進）		病理学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
授業科目		石川 幹真 ¹⁾ 【外科疾患】 中原 博正 ²⁾ 【女性生殖器】 竹中 伊知郎 ³⁾ 【麻酔法】		1 単位 15 時間	講義	3年 後期
実務経験		1)外科医 2)産婦人科医 3)麻酔科医				
授業の概要		外科的治療が必要な主な疾患の病態及び診断・治療について学ぶ。麻酔についても学ぶ。				
授業の到達目標		1. 外科的治療が必要な主な疾患（胃腸・肝・肺・女性生殖器の障害）の病態及び診断・治療について理解する。 2. 小児外科治療について理解する。 3. 麻酔法について理解する。				
授業計画 （全 8 回）		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【外科疾患】			講義	
1	2	1. 外科総論 血管外科治療				石川
2	2	2. 乳腺疾患 呼吸器疾患の外科治療				
3	2	3. 上部消化管疾患 下部消化管疾患の外科治療				
4	2	4. 肝臓 脾臓 胆嚢疾患の外科治療 小児外科治療				
		【女性生殖器】				中原
5	2	5. 女性生殖器疾患の外科的治療 婦人科				
6	2	6. 女性生殖器疾患の外科的治療 産科				
		【麻酔法】			竹中	
7	2	7. 麻酔法 ①				
8	1	8. 麻酔法 ②				
学習課題 （事前・事後）						
成績評価の方法		各詳細科目修了後に筆記試験を実施する。 1. 外科疾患 100点 2. 女性生殖器疾患 100点 3. 麻酔法 100点 最終評価 1・2・3の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等		別巻 臨床外科看護総論（医学書院）別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 専門分野Ⅱ女性生殖器 成人看護学9（医学書院） 専門分野 母性看護学各論（医学書院）				
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	鈴木邦裕 ¹⁾ 【呼吸器疾患】 古賀 徳之 ²⁾ 【循環器疾患】 土橋卓也 ³⁾ 【血管・高血圧】 中村 滋郎 ⁴⁾ 【消化器疾患】		1 単位 30 時間	講義	2年 前期～後期	
実務経験	1)呼吸器内科医師 2)循環器内科医師 3)循環器内科医師 4)消化器内科医師					
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。					
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。					
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【呼吸器疾患】				
1	2	1. 呼吸器の診断と検査			講義	鈴木
2	2	2. 呼吸器の治療と処置				
3	2	3. 主な呼吸器疾患 ①				
4	2	4. 主な呼吸器疾患 ②				
5	2	5. 主な呼吸器疾患 ③				
		【循環器疾患】				
6	2	1. 循環器総論			講義	古賀
7	2	2. 心不全				
8	2	3. 虚血性心臓病				
9	2	4. 不整脈				
10	2	5. その他の疾患				
		【消化器疾患】				
11	2	1. 消化器各論 食道疾患 胃疾患 腸疾患 腹膜肛門疾患			講義	中村
12	2	2. 消化器各論 食道疾患 胃疾患 腸疾患 腹膜肛門疾患				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		次頁参照				
テキスト * 参考文献等		次頁参照				
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	鈴木邦裕 ¹⁾ 【呼吸器疾患】 古賀 徳之 ²⁾ 【循環器疾患】 土橋 卓也 ³⁾ 【血管・高血圧】中村 滋郎 ⁴⁾ 【消化器疾患】		1 単位 30 時間	講義	2年 前期～後期
実務経験	1)呼吸器内科医師 2)循環器内科医師 3)循環器内科医師 4)消化器内科医師				
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。				
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		【血管・高血圧】		講義	土橋
13	2	1. 高血圧と動脈硬化 ①			
14	2	2. 高血圧と動脈硬化 ②			
15	2	3. 高血圧と動脈硬化 ③			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		各詳細科目終了後、筆記試験を実施する。 1. 呼吸器疾患 100点 2. 循環器疾患 100点 3. 消化器疾患 100点 4. 高血圧 レポート 100点 最終評価 1. 2. 3. 4の評価点の平均とする。			
テキスト * 参考文献等		専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器(医学書院)			
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅲ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	末永賢也 ¹⁾ 【運動器疾患】大仲正太郎 ²⁾ 【腎疾患】 中村宇大 ³⁾ 【内分泌代謝疾患】 森雄二郎 ⁴⁾ 【眼科疾患】 藤井春香 ⁵⁾ 【皮膚疾患・アレルギー・膠原病】		1 単位 30 時間	講義	2年 前期～後期	
実務経験	1) 整形外科医 2) 腎臓内科医 3) 糖尿病内科医 4) 眼科医 5) 皮膚科医					
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、運動器・腎・内分泌、代謝・皮膚・アレルギー、膠原病の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。					
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、運動器・腎・内分泌、代謝・皮膚・アレルギー、膠原病の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。					
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【運動器疾患】			講義	末永
1	2	1. 運動器の構造と機能 症状と病態生理				
2	2	2. 診断・検査と治療・処置				
3	2	3. 外傷性の運動器疾患				
4	2	4. 内因性(非外傷性)の運動器疾患				
5	2	5. 内因性(非外傷性)の運動器疾患 患者の看護				
		【腎疾患】			講義	大仲
6	2	1. 腎臓病 臨床症候				
7	2	2. 腎臓病 腎組織病理				
		【内分泌代謝疾患】			講義	中村
8	2	1. 内分泌疾患総論				
9	2	2. 内分泌疾患 脂質異常症と高尿酸血症				
10	2	3. 糖尿病①				
11	2	4. 糖尿病②				
		【皮膚疾患・アレルギー・膠原病】			講義	藤井
12	2	1. 免疫・アレルギー 膠原病				
13	2	2. 皮膚科の感染症 皮膚腫瘍 母斑症 他				
		次頁参照へ				
学習課題 (事前・事後)	次頁参照へ					
成績評価の方法	次頁参照へ					
テキスト * 参考文献等	次頁参照へ					
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅲ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	末永賢也 ¹⁾ 【運動器疾患】大仲正太郎 ²⁾ 【腎疾患】 中村宇大 ³⁾ 【内分泌代謝疾患】森雄二郎 ⁴⁾ 【眼科疾患】 () ⁵⁾ 【皮膚疾患・アレルギー・膠原病】	1 単位 30 時間	講義	2年 前期～後期
実務経験	1)整形外科医 2)腎臓内科医 3)糖尿病内科医 4)皮膚科医 5)眼科医			
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、運動器・腎・内分泌、代謝・皮膚・アレルギー、膠原病の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、運動器・腎・内分泌、代謝・皮膚・アレルギー、膠原病の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容		授業方法	担当
回数	時間			
		【眼科疾患】		
14	2	1. 眼の構造と機能・検査・処置	講義	森
15	2	2. 主な眼科疾患		
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	各詳細科目の講義が終了後、終講試験を行う。 筆記試験 1. 【運動器疾患】100点 2. 【腎疾患】100点 3. 【内分泌代謝疾患】100点 4. 【皮膚疾患・アレルギー・膠原病】100点 5. 【眼科疾患】100点 最終評価 1. 2. 3. 4. 5の評価点の平均とする。			
テキスト * 参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅳ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	荒川 修治 ¹⁾ 【神経・筋疾患】 山口 慎也 ²⁾ 【脳外科疾患】 梅野 好啓 ³⁾ 【耳鼻咽喉疾患】		1 単位 15 時間	講義	3年 前期
実務経験	1)脳神経内科医師 2)脳神経外科医師 3)耳鼻咽喉科医師				
授業の概要	1. 脳・神経系の主な疾患の病態及び治療(内科的・外科的)・処置について学ぶ。 2. 耳鼻咽喉の主な疾患の病態及び治療・処置・検査について学ぶ。				
授業の到達目標	人体の機能と構造を踏まえ、脳・神経系、耳鼻咽喉疾患の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を習得する。				
授業計画 (全 8 回)	授業内容			授業方法	担当
回数					
		【神経・筋疾患】			
1	2	1. 神経学的検査 画像診断 電気生理学的検査 脳脊髄液検査 生検	講義	荒川	
2	2	2. 脳血管障害 末梢神経障害 筋疾患・神経接合部疾患			
3	2	3. 脱髄・変形疾患 脳神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症			
		【脳外科疾患】			
4	2	1. 脳血管障害	講義	山口	
5	2	2. 脳腫瘍			
6	2	3. 外傷・水頭症			
		【耳鼻咽喉疾患】			
7	2	1. 耳鼻咽喉科領域の解剖と機能 代表的な疾患の病態 検査 治療	講義	梅野	
8	1	2. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法	各詳細科目終了後、筆記試験を実施する。 1. 神経・筋疾患100点 2. 脳外科疾患 100点 3. 耳鼻咽喉疾患 100点 最終評価 1. 2. 3の評価点の平均とする。				
テキスト *参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学 7 脳・神経(医学書院) 別巻 臨床外科看護各論(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学 14 耳鼻咽喉(医学書院)				
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目		病理学Ⅴ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員		大穂 有恒 ¹⁾ 【肝疾患】 尾畑 鉦史 ²⁾ 【泌尿器疾患】 田中 綾 ³⁾ 【血液疾患】		1 単位 15 時間	講義	3年 前期～後期	
実務経験		1)肝臓内科医 2)泌尿器科医 3)血液内科医					
授業の概要		1. 主な肝疾患(肝炎・肝がんなど)の病態及び診断・治療について学ぶ。 2. 主な泌尿器疾患(膀胱がん・前立腺癌など)の病態及び診断・治療について学ぶ。 3. 主な血液・造血器疾患(白血病など)の病態及び診断・治療について学ぶ。					
授業の到達目標		人体の機能と構造を踏まえ、肝疾患、泌尿器疾患、血液・造血器疾患の病態及び診断・治療に関する基本的な知識を習得する。					
授業計画 (全 8 回)		授業内容			授業方法	担当	
回数	時間						
		【肝疾患】					
1	2	1. 肝臓・膵臓・胆嚢の解剖生理			講義	大穂	
2	2	2. 主な肝臓疾患の病態生理					
3	2	3. 肝機能検査					
4	2	4. 主な肝疾患の治療 肝炎・肝硬変・肝臓がん・胆道系・膵疾患					
		【泌尿器疾患】				尾畑	
5	2	1. 泌尿器疾患の診療・診断法					
6	2	2. 主な泌尿器科疾患の病態生理・治療 膀胱腫瘍・前立腺肥大症・尿路結石				田中	
		【血液疾患】					
7	2	1. 血液・造血器疾患の診療・診断法					
8	1	2. 主な血液・造血器疾患の病態生理・治療					
		鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・白血病・骨髄異形成症候群・					
		慢性リンパ性白血病・成人T細胞白血病 他					
学習課題 (事前・事後)							
成績評価の方法		各詳細科目終了後、筆記試験を実施する。 1. 【肝疾患】筆記試験 100点 2. 【泌尿器疾患】筆記試験 50点 3. 【血液疾患】筆記試験 50点 最終評価 1. 2. 3. の各評価点の平均とする					
テキスト * 参考文献等		成人看護学 5 消化器(医学書院) 成人看護学 4 血液・造血器(医学書院) 成人看護学 12 腎・泌尿器(医学書院)					
学生へのメッセージ							
備考							

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	薬理学 I		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	後藤 渉		1 単位 15 時間	講義	1 年 後期
実務経験	薬剤師				
授業の概要	現代医学における薬理学の意義や役割を理解し、薬物の作用機序、特徴、副作用、取り扱いや管理について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 薬物の性質について理解できる。 2. 薬物の投与方法について理解できる。 3. 薬剤を取り扱う際の注意点について理解できる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 薬とは何か		講義	後藤
2	2	2. 薬理学の基礎知識① 薬物療法の種類 薬理学とは 薬物治療のめざすもの			
3	2	3. 薬理学の基礎知識② 薬の投与経路 薬物動態の要素			
4	2	4. 薬理学の基礎知識③			
5	2	5. 抗感染症薬			
6	2	6. 抗がん薬			
7	2	7. 免疫治療薬			
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法	筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 薬理学 (医学書院)				
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	薬理学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	後藤 渉		1 単位 15 時間	講義	2年 前期	
実務経験	薬剤師					
授業の概要	薬理学の基礎を踏まえ、看護に必要な臨床での薬剤に関する知識を習得する。					
授業の到達目標	1. 薬剤の作用序および効果を理解できる。 2. 薬剤の代表的な副作用を理解できる。 3. 投薬時の注意や看護のポイントについて理解できる。					
授業計画 (全 8 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 抗エネルギー薬 抗炎症薬			講義	後藤
2	2	2. 末梢での神経活動に作用する薬物				
3	2	3. 心臓・血管系に作用する薬物				
4	2	4. 心臓・血管系に作用する薬物				
5	2	5. 中枢神経系に作用する薬物				
6	2	6. 中枢神経系に作用する薬物				
7	2	7. 消化器系・物質代謝に作用する薬物				
8	1	8. まとめ				
学習課題 (事前・事後)	事前にテキストに目を通して概要を把握しておく。					
成績評価の方法	筆記試験 100点					
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 薬理学(医学書院)					
学生へのメッセージ						
備考						

授業科目	栄養学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中岡 寛	1 単位 15 時間	講義	1 年 前期
実務経験	大学教授			
授業の概要	看護の対象となるあらゆる人々の健康の保持・増進、あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための基本的な知識を学ぶ。			
授業の到達目標	栄養素の体内利用に関して、生化学で得た知識をもとに、健康の維持とその増進に必要な食物及び食生活について理解する。			
授業計画 (全 8 回)	授業内容		授業方法	担当
回数 時間				
1 2	1. 栄養素の種類とはたらき(糖質)	講義	中岡	
2 2	2. 栄養素の種類とはたらき(脂質)			
3 2	3. 栄養素の種類とはたらき(タンパク質)			
4 2	4. 栄養素の種類とはたらき(ビタミン)			
5 2	5. 栄養素の種類とはたらき'ビタミン)			
6 2	6. 栄養素の種類とはたらき(ビタミン)			
7 2	7. 臨床診査(脂質異常 糖質 等)			
8 1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験 100点			
テキスト	専門基礎分野 栄養学(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	環境学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	田中 昭代		1 単位 15 時間	講義	1 年 前期
実務経験	大学特任講師				
授業の概要	環境破壊の実態や環境保全の現状を知り、人間と自然環境の関係、生活環境における安全について理解する。				
授業の到達目標	環境により生じる健康障害にはどのようなものがあるか、またそれらが生じる原因は何か理解する。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 環境学概論		講義	田中
2	2	2. 環境について ① 人間と生活環境 健康問題と環境			
3	2	3. 環境について ② 環境問題の動向と公衆衛生			
4	2	4. 環境問題について ① 環境基本法環境破壊 地球温暖化			
5	2	5. 環境問題について ② 環境基本法環境破壊 地球温暖化			
6	2	6. 環境学と国際化 保健医療分野における国際協力			
7	2	7. 環境保全 環境社会学教育			
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法	筆記試験 100点				
テキスト	健康支援と社会保障制度2 公衆衛生（医学書院）				
* 参考文献等					
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	公衆衛生学		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中西 昌嗣		1 単位 15 時間	講義	3 年 後 期
実務経験	産業医				
授業の概要	健康の保持・増進に影響を及ぼす諸条件や公衆衛生に関連する統計情報を学び、組織的な保健活動について理解する。				
授業の到達目標	1. 保健統計の意義を理解する。 2. 公衆衛生における保健医療の仕組みや社会資源について理解する。 3. どのような公衆衛生活動が行われているか知る。 4. 職場における健康管理と安全対策について知る。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 公衆衛生学概論		講義	中西
2	2	2. 国民の健康と保健統計			
3	2	3. 公衆衛生と医療			
4	2	4. 医療保障			
5	2	5. 地域保健			
6	2	6. 疾病の疫学と予防			
7	2	7. 産業保険概論 危機管理			
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		筆記試験 100点			
テキスト * 参考文献等		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生(医学書院) * 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)			
学生へのメッセージ					
備考					

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目		社会保障		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		藤岡 良幸		2 単位 30 時間	講義	3年 前期～後期
実務経験		社会福祉士				
授業の概要		社会保障制度と社会福祉の専門的方法を学び、社会で生活する人に必要な社会資源について理解する。				
授業の到達目標		社会保障・社会福祉の基本的な原理や現代社会における制度の必要性を理解し、それが単に試験合格のためでなく、現在・将来の自分や家族を守るためのものであり、さらに看護職との関係性の認識やクライアントへの対応に必要なものであることを自覚する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 講義の進め方。テキストの見方と調べ方。配付資料の説明など			講義	藤岡
2	2	2. 社会保障・社会福祉とは何か。現代社会における制度の必要性				
3	2	3. 社会保障・社会福祉の歴史。戦後における諸制度の整備・発展				
4	2	4. 近年の動向と諸尾制度の見直し。社会・経済的背景と家族の変化				
5	2	5. 所得保障1:年金保険・労働保険・社会手当制度の生成と現状				
6	2	6. 所得保障2:最低限度の生活と公的扶助制度。制度生成と現状				
7	2	7. 高齢化社会と高齢者福祉1:老人問題と老人福祉。現状と課題				
8	2	8. 高齢化社会と高齢者福祉2:高齢者の医療・介護。現状と課題				
9	2	9. 少子化社会と児童福祉1:社会・地域・家族の変化と児童福祉				
10	2	10. 少子化社会と児童福祉2:少子化・児童虐待・母子家庭と福祉				
11	2	11. 障害者福祉:身体障害者・知的障害者・精神障害者の各福祉				
12	2	12. 社会福祉の基盤:社会福祉行政・財政・従事者・施設・受益者				
13	2	13. 全制度的課題:福祉サービスと保健・医療・看護・介護の連携				
14	2	14. 国家試験:最近の福祉関係問題出題傾向と直前までの学習方法				
15	2	15. 国家試験:過去問ミニテストの実施と答案の返却・解答・解説				
学習課題 (事前・事後)		国家試験(社会保障・社会福祉関係問題)の8割以上を正答できる力をつける。				
成績評価の方法		筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会制度・社会福祉(医学書院)				
学生へのメッセージ		社会保障・社会福祉の制度内容は、範囲も広く、頻繁に改正・見直しがあるため、関連資料と共に試験前には最新のものを確認しておくのが望ましいです。関係法規、資料・データなどは厚生労働省ホームページなどでもチェックしておきましょう。				
備考						

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）						
授業科目		関係法規Ⅰ		単位数	授業形態	
担当教員		櫻庭 総		1 単位 15 時間	講義	
実務経験		大学教授				
授業の概要		看護職に必要な法令について理解し、厚生行政のしくみ及び医事法規概要・保助看法・関係法規・医療過誤について学ぶ。				
授業の到達目標		1. 法の仕組み、基本的な考え方を理解することができる。 2. 保健医療福祉に関する法制度の内容や職種の果たす役割について理解することができる。 3. 生活者の健康を守るために必要な法規の内容を理解することができる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 保助看法			講義	櫻庭
2	2	2. 医療過誤				
3	2	3. 医療法				
4	2	4. 患者の権利				
5	2	5. 労働基準法				
6	2	6. 障害者関連法規				
7	2	7. 臓器移植法・母体保護法				
8	1	8. まとめ				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		筆記試験 100点				
テキスト		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令(医学書院)				
* 参考文献等						
学生へのメッセージ						
備考						

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目		関係法規Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		櫻庭 総		1 単位 15 時間	講義	3年 後期
実務経験		大学教授				
授業の概要		保健医療福祉の動向を知り、看護業務実践における法律を理解する。				
授業の到達目標		1. 最新の保健医療福祉の動向を理解することができる。 2. 法改正の背景や目的を理解し、看護職としての果たす役割を理解することができる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 障害者関連法規			講義	櫻庭
2	2	2. 障害者関連法規				
3	2	3. 助看法、医療過誤				
4	2	4. 助看法、医療過誤				
5	2	5. 医療法・労働基準法など				
6	2	6. 医療法・労働基準法など				
7	2	7. 各種虐待防止法				
8	1	8. まとめ				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		筆記試験 100点				
テキスト * 参考文献等		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令（医学書院）				
学生へのメッセージ						
備考						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	看護学概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	芹野 恭子		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	看護の主要概念(健康 人間 環境 看護)をとらえ、ナイチンゲール看護論及びナイチンゲールの思想に基づいたKOMIケア理論について目的論・対象論・方法論を学ぶ。看護とは何か、看護の対象、看護の役割、歴史の変遷について学ぶ。また医療・看護を取り巻く看護とは何か、看護の対象、看護の役割、歴史の変遷について学ぶ。また医療・看護を取り巻く社会の状況から、看護の位置づけ、看護の対象者および看護活動の場について理解する。				
授業の到達目標	1. 看護の概念・定義・看護の歴史・教育制度・社会的背景について理解する。 2. 看護職の法的責任と倫理の必要性を知る。 3. 「看護とは何か」を考えるための基本となるナイチンゲール看護論を学ぶ。 4. 保健・医療・福祉システムにおける看護の位置づけ、看護の役割を理解する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	看護とは		DVD視聴	芹野
2	2	看護とは			
3	2	看護の歴史		講義 (GW)	
4	2	ナイチンゲールの功績(看護覚え書きについて)			
5	2	看護の概念 看護の定義 看護の役割		講義	
6	2	看護者の基本的責務 倫理綱領		講義 (GW)	
7	2	看護の主要概念 健康とは			
8	2	病気とは 看護の視点で病気を見る		講義	
9	2	看護の目的論 看護の5つのものさし			
10	2	看護の対象とその理解 看護の対象論その1			
11	2	看護の対象とその理解 看護の対象論その2			
12	2	看護の対象とその理解 看護の対象論その3			
13	2	看護実践の理論的根拠 看護理論			
14	2	看護実践の理論的根拠 KOMIケア理論 看護の方法論(看護過程)			
15	2	看護の提供のしくみ(保健・医療・福祉システム)		講義 (GW)	
学習課題 (事前・事後)	1. 入学前事前課題:国民皆保険制度について 2. ナイチンゲールの功績について				
成績評価の方法	課題レポート(40点)及び最終レポート(60点)にて評価:合計100点 課題レポートについては講義の中で説明する				
テキスト * 参考文献等	看護学概論(医学書院)・実践を創る 新・看護学原理 ナイチンゲール看護思想を基盤として(現代社) ナイチンゲール看護覚え書(現代社)・看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) * 看護学概論 メヂカルフレンド社他				
学生へのメッセージ	ナイチンゲールの「看護覚え書」を基本として、ナイチンゲール看護論及びKOMIケア理論を学びます。「看護とは何か」についてグループワーク・ペアワークを通して一緒に考えていきましょう。				
備考					

専門分野(基礎看護学)

授業科目		看護研究Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		永野 薫 ¹⁾ ・黒坂 知絵 ²⁾		1 単位 30 時間	講義・ワーク	1 年 前期～後期
実務経験		1) 看護師 看護教員 2) 工学博士 大学准教授				
授業の概要		看護における研究の必要性、意義、研究のプロセスを学習し、研究方法の基礎を理解する。また、看護や生活の中の疑問、問題点の中から研究テーマを見つけ統計的検定方法を用い、研究結果を客観的に証明する。				
授業の到達目標		1. 看護研究の意義と方法について理解する。 2. テーマを見つけ統計を活用して、研究に取り組み研究論文を作成し発表する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	看護研究の概要(看護研究の意義と歴史的変遷・研究のプロセス)			講義	永野
2	2	研究の種類と研究方法				
3	2	看護研究における倫理的配慮 (倫理指針・著作権と引用)				
4	2	グループ研究の進め方 研究論文の構成と研究成果の発表方法の実際				
5	2	文献検索とクリティーク				
6	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ①			演習	黒坂
7	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ②				
8	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ③				
9	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ④				
10	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ⑤				
11	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ⑥				
12	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ⑦				
13	2	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表 ⑧				
14	2	看護研究発表会			発表	永野
15	2	看護研究発表会				
学習課題 (事前・事後)		研究計画を立案し、グループワークを行いながら論文作成・発表までを行う。				
成績評価の方法		筆記試験(4割) 論文評価(6割、ただし、研究に取り組む姿勢・態度も含む)。 論文は、3名の教員で評価表に基づき評価を行う。				
テキスト * 参考文献等		看護師・保健師を目指すひとのやさしい統計処理－保健・医療データの活用－(実教出版) 看護研究(医学書院)				
学生へのメッセージ		問題意識(何故だろう?)をもって日々の生活を送ってみましょう。研究のテーマがそこに見いだせます。 グループワークでは、リーダーシップ・メンバーシップを発揮して取り組みましょう。				
備考		グループワークの時間は、上記外の時間です。各グループには担当教員がいますので報、連、相、を図ってください。研究の統計処理は、情報科学の授業と連動しています。				

専門分野(基礎看護学)

専門分野(兼任看護士)

授業科目	看護研究Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	藤田直子		1 単位 30 時間	講義 ワーク	3年 前期	
実務経験	看護師 看護教員					
授業の概要	事例研究を通して、看護実践を振り返り、対象の理解を深めるとともに看護過程の展開や看護の意味を論理的に考察する力を養うことを目的とする。					
授業の到達目標	1. 実習で経験した事例を整理し、対象理解と看護実践を文章としてまとめることができる。 2. 文献をもとに看護実践を分析・考察し、看護の意義を明らかにすることができる。 3. 事例研究の成果を発表し、討議を通して看護への理解を深めることができる。					
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数	時間					
1	2	1. 事例研究とは 研究の目的・目標 論文の構成 研究スケジュール			講義 藤田	
2	2	2. 研究計画書 事例研究論文の作成 事例研究の評価				
3	2	3. クリティーク プレゼンテーション 事例研究発表会について				
4	2	4. 論文の作成 ①			演習	事例担当教員
5	2	5. 論文の作成 ②				
6	2	6. 論文指導 ①			個別指導	
7	2	7. 論文指導 ②				
8	2	8. 発表練習 ①			演習	藤田
9	2	9. 発表練習 ②				
10	2	10. 事例研究発表会				
11	2	11. 事例研究発表会				
12	2	12. 事例研究発表会				
13	2	13. 事例研究発表会				
14	2	14. 事例研究発表会				
15	2	15. 事例研究発表会				
学習課題 (事前・事後)	実習で受け持った事例を論文としてまとめる。自己のテーマを絞り込み文献のクリティークを積極的に行う					
成績評価の方法	論文の評価は、3名の教員で評価表に基づき行う。 事例研究への取り組み及び論文作成過程とその発表を通して総合的に評価する。					
テキスト	別巻 看護研究(医学書院)					
* 参考文献等						
学生へのメッセージ	論文の作成は難しく感じますが、実習で行った自分の看護実践を深く探求しましょう。					
備考						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	看護安全		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	小倉直美		1 単位 15 時間	講義・演習	1 年 前期	
実務経験	看護師 看護教員					
授業の概要	医療・看護における安全の意義と目的を理解し、安全を守る基本的な技術と感性を養う。					
授業の到達目標	1. 医療・看護における安全について、必要性を理解できる。 2. 感染防止のための技術の基本を習得できる。 3. 記録・報告の必要性を理解できる。					
授業計画 (全 8 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
1	2	1. 安全の意義と目的			講義	小倉
		1)医療事故の原因				
		2)リスク感性				
2	2	3)医療事故防止				
3	2	2. 感染防止の技術				
		1)感染とその予防の基礎知識				
		2)標準予防策、感染経路別予防策				
4	2	3)洗浄・消毒・滅菌				
		4)無菌操作				
		5)感染性廃棄物の取り扱い				
5	2	3. 記録と報告			演習	
		1)看護記録の目的と留意点				
		2)報告の目的と留意点				
6	2	4. 衛生的手洗い、無菌操作の実施				
7	2	衛生的手洗い、無菌操作の実施				
8	1	5. PPE装着				
学習課題 (事前・事後)	事前にテキストを確認し、概要を把握しておく。 授業後は、テキストを見直し、復習を行う。					
成績評価の方法	筆記試験 100点、授業、演習中の態度、課題の提出状況など含む					
テキスト * 参考文献等	基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
学生へのメッセージ	医療従事者にとって、安全確保のための知識・技術はとても重要です。習得できるように頑張りましょう。					
備考						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	生活援助方法論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	兼川五月 ¹⁾ 【環境】工藤加奈子 ²⁾ 【睡眠・休息】 永野薫 ³⁾ 【食事】小倉直美 ⁴⁾ 【姿勢・移動・排泄】 梅木恵利 ⁵⁾ 他【清潔・衣生活】	2 単位 90 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	1)～5)看護師 看護教員			
授業の概要	人間にとっての「環境」「睡眠・休息」「食事」「清潔・衣生活」「姿勢・移動」「排泄」の日常生活援助の基本的知識・技術について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 看護実践に必要な看護技術を科学的根拠に基づき理解できる。 2. 日常生活援助技術の原理原則をふまえ、実践することが出来る。			
授業計画 (全 45 回)	授業内容		授業方法	担当
回数	時間			
		【環境】		
1	2	1. 看護における環境を整える意義	講義	兼川
2	2	2. 病床の環境を整える視点・病棟の構造と病室	講義	
3	2	3. 環境調整の援助(演習)	演習	
4	2	4. ベッドメイキングの目的とシーツのたたみ方(演習)	講義・演習	
5	2	5. ベッドメイキング(演習)	演習	
6	2	6. ベッドメイキング(演習)	演習	
7	2	7. ベッドメイキング(演習)	演習	
8	2	8. 臥床患者のシーツ交換の目的と実際(演習)	講義・演習	
9	2	9. 臥床患者のシーツ交換(演習) まとめ	講義・演習	
		【姿勢・移動】		
10	2	1. 基本的活動の援助・良い姿勢・ボディメカニクス・廃用症候群	講義	小倉
11	2	2. 援助技術の実際 体位・体位変換・ポジショニング	講義	
12	2	3. 体位変換	演習	
13	2	4. 援助技術の実際 移乗・移送・車椅子・ストレッチャー・杖	講義	
14	2	5. 車椅子の移乗・移送・ストレッチャーの移乗	演習	
15	2	6. 車椅子の移乗・移送・ストレッチャーの移乗	演習	
		次頁参照		
学習課題 (事前・事後)	次頁参照			
成績評価の方法	次頁参照			
テキスト * 参考文献等	次頁参照			
学生へのメッセージ	次頁参照			
備考				

専門分野(基礎看護学)

授業科目	生活援助方法論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	兼川五月 ¹⁾ 【環境】工藤加奈子 ²⁾ 【睡眠・休息】 永野薫 ³⁾ 【食事】小倉直美 ⁴⁾ 【姿勢・移動・排泄】 梅木恵利 ⁵⁾ 他【清潔・衣生活】		2 単位 90 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	1)～5)看護師 看護教員				
授業の概要	人間にとっての「環境」「睡眠・休息」「食事」「清潔・衣生活」「姿勢・移動」「排泄」の日常生活援助の基本的知識・技術について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 看護実践に必要な看護技術を科学的根拠に基づき理解できる。 2. 日常生活援助技術の原理原則をふまえ、実践することが出来る。				
授業計画 (全 45 回)	授業内容			授業方法	担当
回数					
		【食事】			
16	2	1. 食事の意義	講義	永野	
17	2	2. 消化吸収のメカニズム			
18	2	3. 疾病時の食事と援助			
19	2	4. 嚥下のメカニズム			
20	2	5. 非経口的栄養法			
21	2	6. 食事摂取の介助 視力障害患者 麻痺患者 臥床患者の介助	演習		
22	2	7. 食事摂取の介助 視力障害患者 麻痺患者 臥床患者の介助			
		【睡眠】			
23	2	1. 睡眠・休息の意義と睡眠制御のメカニズム	講義・演習	工藤	
24	2	2. 睡眠の種類と睡眠障害の種類			
25	2	3. 睡眠障害の要因と睡眠を促す援助			
26	2	4. 罨法			
		【排泄】			
27	2	1. 排泄の意義とメカニズム	講義	小倉	
28	2	2. 排泄援助のための観察とアセスメント			
29	2	3. 排泄援助について 自然排便 自然排尿を促す援助方法			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ	次頁参照				
備考					

専門分野(基礎看護学)

授業科目	生活援助方法論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	兼川五月 ¹⁾ 【環境】工藤加奈子 ²⁾ 【睡眠・休息】 永野薫 ³⁾ 【食事】小倉直美 ⁴⁾ 【姿勢・移動 排泄】 梅木恵利 ⁵⁾ 他【清潔・衣生活】	2 単位 90 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	1)～5)看護師 看護教員			
授業の概要	人間にとっての「環境」「睡眠・休息」「食事」「清潔・衣生活」「姿勢・移動」「排泄」の日常生活援助の基本的知識・技術について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 看護実践に必要な看護技術を科学的根拠に基づき理解できる。 2. 日常生活援助技術の原理原則をふまえ、実践することが出来る。			
授業計画 (全 45 回)	授業内容		授業方法	担当
回数	時間			
30	2	4. 排泄援助の実際 便器のあて方	演習	小倉
31	2	5. 排便困難時の援助について 便秘・下痢・便失禁・浣腸・摘便の方法	講義	
32	2	6. 排便困難時の援助の実際 グリセリン浣腸	演習	
33	2	7. 排尿障害時の援助について 蓄尿の障害 排出困難と尿閉 排尿障害の援助方法	講義	
34	2	8. 排尿障害時の援助の実際 膀胱留置カテーテル	演習	
		【清潔・衣生活】		
35	2	1. 身体清潔の意義・目的 衣生活の意義・衣類選択の援助	講義	兼川
36	2	2. 身体清潔の援助方法 入浴・シャワー浴	講義	
37	2	3. 身体清潔の援助方法 全身清拭 病衣・寝衣の交換	講義	
38	2	4. 身体清潔の援助方法 全身清拭	演習	
39	2	5. 身体清潔の援助方法 陰部洗浄	講義	小倉
40	2	6. 身体清潔の援助方法 陰部洗浄	演習	
41	2	7. 整容 洗面・口腔ケア	講義	芹野
42	2	8. 身体清潔の援助方法 手浴・足浴	講義	
43	2	9. 身体清潔の援助方法 洗髪	講義	梅木
44	2	10. 身体清潔の援助方法 洗髪	演習	
45	2	11. 身体清潔の援助方法 洗髪	演習	
学習課題 (事前・事後)	各担当教員より適宜指示をする。			
成績評価の方法	各科目終了ごとに終講試験があります。 【環境】終講試験40点(筆記試験35点 態度5点)【睡眠・休息】終講試験30点【姿勢・移動】30点 【排泄】終講試験100点(筆記試験80点 レポート・態度20点)【食事】筆記試験100点 【清潔・衣生活】終講試験100点(筆記試験70点 課題評価25点 態度5点)			
テキスト * 参考文献等	1. 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 2. 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 3. 根拠と事故防止防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院			
学生へのメッセージ	授業終了後、基礎看護技術のテストがあります。技術項目や日程については事前に説明をします。 このテストに合格することは、基礎看護学Ⅰ実習の履修条件となります。しっかり練習に取り組みましょう。			
備考				

専門分野(基礎看護学)

専門力科(保健看護系)

授業科目	ヘルスアセスメント		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	梅木 恵利 ¹⁾ 古田 小雪 ²⁾		1 単位 45 時間	講義・演習	1 年 前期
実務経験	1) 2) 看護師 看護教員				
授業の概要	対象の健康状態の把握に必要なフィジカルアセスメントやコミュニケーション方法を理解し、看護実践における基本的なアセスメント能力を習得する。				
授業の到達目標	1. ヘルスアセスメントの意味を理解し、フィジカルアセスメント技術を習得する事ができる。 2. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切なメッセージを伝える方法を習得する。				
授業計画 (全23回)	授業内容			授業方法	担当
回数 時間					
1	2	1. ヘルスアセスメントとは			古田
2	2	2. アセスメントの技術(呼吸の観察・体温測定)			
3	2	3. 生命徴候のアセスメント(脈拍・血圧測定)			
4	2	4. アセスメントの技術(脈拍・血圧測定)			
5	2	5. 一連のバイタルサイン測定・身体計測			
6	2	6. バイタルサイン測定の技術演習①			
7	1	7. バイタルサイン測定の技術演習②			
8	2	8. 心臓・循環器系のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)①			梅木
9	2	9. 心臓・循環器系のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)②			
10	2	10. 胸部・肺のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)①			
11	2	11. 胸部・肺のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)②			
12	2	12. 腹部のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)①			
13	2	13. 腹部のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)②			
14	2	14. 脳神経系のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)①			
15	2	15. 脳神経系のアセスメント(問診・視診・触診・打診・聴診)②			
16	2	16. 事例学習			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ	次頁参照				
備考	次頁参照				

専門分野(基礎看護学)

授業科目	ヘルスアセスメント		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	梅木 恵利 ¹⁾ ・古田 小雪 ²⁾		1 単位 45 時間	講義・演習	1年 前期
実務経験	1)2)看護師 看護教員				
授業の概要	前頁参照				
授業の到達目標	前頁参照				
授業計画 (全23回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
17	2	17. コミュニケーションの意義と目的	講義	古田	
18	2	18. コミュニケーションの構成要素と成立過程			
19	2	19. 関係構築のためのコミュニケーション			
20	2	20. 効果的なコミュニケーション(傾聴)			
21	2	21. 効果的なコミュニケーション(説明の技術)			
22	2	22. 効果的なコミュニケーションの実際	演習		
23	2	23. コミュニケーション障害への対応	講義		
学習課題 (事前・事後)		講義の中で提示する。			
成績評価の方法		1. ヘルスアセスメント(古田)筆記試験 100点 2. ヘルスアセスメント(梅木)筆記試験 100点 3. コミュニケーション(古田)筆記試験 100点 最終評価 1. 2. 3の評価点の平均とする。			
テキスト * 参考文献等		基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 看護につなげる看護形態機能学 メディカルフレンド社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
学生へのメッセージ		基礎看護技術の中でもフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定は1年次から確実に身につけてほしい内容です。また、コミュニケーションも看護場面ではとても大切な技術になります。ヘルスアセスメントの基礎をしっかりと習得しましょう。			
備考					

専門分野(基礎看護学)

授業科目	看護過程方法論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	兼川五月		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	看護過程の基本を知り、具体的な展開方法を学ぶ。				
授業の到達目標	ナイチンゲールの看護の思想とKOMIケア理論を活用し、対象が抱える健康上および生活上の課題を解決する方法を習得する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
1	2	1. 看護過程とは	講義	兼川	
2	2	2. KOMIチャートシステムを用いた看護過程の展開について			
3	2	3. 基本情報シート 検査・治療情報シートの作成			
4	2	4. 学生用レーダーチャート KOMIチャートの作成			
5	2	5. ケアの方向性・優先順位の考え方			
6	2	6. 看護計画 記録 評価			
7	2	7. 事例演習 ① グループワークによる看護過程展開	演習		
8	2	8. 事例演習 ② グループワークによる看護過程展開			
9	2	9. 事例演習 ③ グループワークによる看護過程展開			
10	2	10. 事例演習 ④ グループワークによる看護過程展開			
11	2	11. 事例演習 ⑤ グループワークによる看護過程展開			
12	2	12. 事例演習 ⑥ グループワークによる看護過程展開			
13	2	13. 事例演習 ⑦ グループワークによる看護過程展開			
14	2	14. 発表			
15	2	15. 発表			
学習課題 (事前・事後)	講義開始前に、看護学概論の講義内容を復習しておくこと				
成績評価の方法	終講試験 100点(筆記試験50点 看護過程事例演習50点)				
テキスト	1. 実践を創る 新・KOMIチャートシステム 金井一薫 現代社 2. 実践を創る 新・看護学原論 金井一薫 現代社 * 参考文献等 3. 基礎看護学技術 I 基礎看護学2				
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野(基礎看護学)

授業科目	治療処置別看護Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期		
担当教員	古田 小雪 ¹⁾ 【薬物療法】中村 まい ²⁾ 【輸液療法】 山田 三千穂 ³⁾ 【創傷管理】 木原 舞 ⁴⁾ 【酸素療法】		1 単位 45 時間	講義	1 年 後期		
実務経験	1)看護師 看護教員 2)クリティカルケア認定看護師 3)皮膚・排泄ケア認定看護師 4)看護師						
授業の概要	薬物療法・輸液療法・創傷管理・酸素療法における看護の基本的知識、技術を学ぶ。						
授業の到達目標	1. 各療法における対象の理解ができる。 2. 各療法における対象に及ぼす影響が理解できる。 3. 各療法における基本的な援助技術の実際が理解できる。						
授業計画 (全23回)		授業内容			授業方法	担当	
回数	時間						
		【薬物療法】			講義	古田	
1	2	1. 薬物療法(与薬)の基礎知識・看護師の役割・薬物の管理					
2	2	2. 与薬の目的・方法の理解・与薬法の作用機序の理解					
3	2	3. 各与薬の方法と留意点の理解(経口・口腔内・直腸内・経皮・吸入)					
4	2	4. 各注射の種類・目標・方法・留意点の理解					
5	2	5. 直腸内与薬の実際					演習
6	2	6. 直腸内与薬の実際					演習
7	2	7. 安全な与薬法					講義
8	1	8. まとめ					
		【輸液療法】					
9	2	1. 輸液療法とは 輸液療法に必要な生理学			講義	中村	
10	2	2. 輸液の実際 ①					
11	2	3. 輸液の実際 ②					
12	2	4. 輸液の実際 ③					
13	2	5. 管理と看護					
		次頁参照					
学習課題 (事前・事後)	次頁参照						
成績評価の方法	次頁参照						
テキスト * 参考文献等	次頁参照						
学生へのメッセージ	次頁参照						
備考	次頁参照						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	治療処置別看護Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	古田 小雪 ¹⁾ 【薬物療法】中村 まい ²⁾ 【輸液療法】 山田 三千穂 ³⁾ 【創傷管理】 木原 舞 ⁴⁾ 【酸素療法】		1 単位 45 時間	講義	1 年 後期	
実務経験	1)看護師 看護教員 2)クリティカルケア認定看護師 3)皮膚・排泄ケア認定看護師 4)看護師					
授業の概要	前頁参照					
授業の到達目標	前頁参照					
授業計画 (全23回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【創傷管理】				
14	2	1. 創傷とは 創傷の治癒過程			講義	山田
15	2	2. 創傷の処置と看護				
16	2	3. 創傷の処置と看護 演習			演習	
17	2	4. 褥瘡ケア			講義	
18	2	5. 褥瘡ケア 演習			演習	
		【酸素療法】				
19	2	1. 呼吸とは			講義	木原
20	2	2. 血液ガス 酸素療法				
21	2	3. 吸引 胸腔ドレーン				
22	2	4. 人工呼吸中の看護 ①				
23	2	5. 人工呼吸中の看護 ②				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		1.【薬物療法】筆記試験 100点 2.【輸液療法】筆記試験 100点 3.【創傷管理】筆記試験 100点 4.【酸素療法】筆記試験 100点 最終評価 1～4の評価点の平均とする。				
テキスト *参考文献等		基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎看護学4 臨床看護学総論 医学書院 臨床外科看護学総論 医学書院 ・ 根拠と事故からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
学生へのメッセージ		治療や処置の根拠を学び、看護技術につなげていきましょう。				
備考						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	治療処置別看護Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	永野薫 ¹⁾ 【診察・検査に伴う看護】相原美加 ²⁾ 【臨床検査】 亀田裕美 ³⁾ 【放射線療法及び化学療法時の看護】 山口紗代 ⁴⁾ 山内大樹 ⁵⁾ 【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】		1 単位 45 時間	講義	2年 前期	
実務経験	1)3)看護師 看護教員 2)臨床検査技師 4)看護師 5)臨床工学技士					
授業の概要	診察・検査・放射線療法・化学療法・麻酔および医療機器使用時における看護の基本的知識、技術を学ぶ。					
授業の到達目標	1. 診察・検査における看護師の役割を理解する。 2. 検査の意義・目的について理解する。 3. 検査を受ける対象を理解し看護上の問題と援助方法について理解する。 4. 臨床検査の目的や意義について理解する。 5. 放射線療法・化学療法を受ける対象を理解し看護援助方法を理解する。 6. 麻酔を受ける対象を理解し基本的援助について理解する。 7. ME機器の基本的な取り扱いかたを理解する。					
授業計画 (全23回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【診察・検査に伴う看護】				
1	2	1. 診察時の介助 検査の意義・目的			講義	永野
2	2	2. 検査における看護師の役割 検査援助の基本と実際				
3	2	3. 検体検査(血液) 静脈血採血の基本技術と留意点				
4	2	4. 検体検査(尿・便・喀痰・穿刺液)の概要と看護師の役割			講義・演習	
5	2	5. 生体検査(x線・CT・MRI・核医学)の概要と看護師の役割				
6	2	6. 内視鏡検査の概要と看護師の役割				
7	1	7. 総括			講義	
		【臨床検査】				
8	2	1. 臨床検査総論			講義	相原
9	2	2. 生化学検査1 凝固検査・腫瘍マーカー				
10	2	3. 生化学検査2				
11	2	4. 生化学検査3 尿検査				
12	2	5. 血液・凝固検査				
13	2	6. 血液・凝固検査				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)		次頁参照				
成績評価の方法		次頁参照				
テキスト		次頁参照				
* 参考文献等						
学生へのメッセージ		次頁参照				
備考						

専門分野(基礎看護学)

授業科目	治療処置別看護Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	永野薫 ¹⁾ 【診察・検査に伴う看護】相原美加 ²⁾ 【臨床検査】 亀田裕美 ³⁾ 【放射線療法及び化学療法時の看護】 山口紗代 ⁴⁾ 山内大樹 ⁵⁾ 【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】		1 単位 45 時間	講義	2年 前期
実務経験	1)3)看護師 看護教員 2)臨床検査技師 4)看護師 5)臨床工学技士				
授業の概要	診察・検査・放射線療法・化学療法・麻酔および医療機器使用時における看護の基本的知識、技術を学ぶ。				
授業の到達目標	1. 診察・検査における看護師の役割を理解する。 2. 検査の意義・目的について理解する。 3. 検査を受ける対象を理解し看護上の問題と援助方法について理解する。 4. 臨床検査の目的や意義について理解する。 5. 放射線療法・化学療法を受ける対象を理解し看護援助方法を理解する。 6. 麻酔を受ける対象を理解し基本的援助について理解する。 7. ME機器の基本的な取り扱い方を理解する。				
授業計画 (全23回)	授業内容			授業方法	担当
回数	時間				
		【放射線療法及び化学療法時の看護】			
14	2	1. 放射線療法を受ける患者の看護 放射線被曝防止策			亀田
15	2	2. 放射線療法を受ける患者の看護			
16	2	3. 化学療法を受ける患者の看護			
17	2	4. 化学療法と副作用の看護			
18	2	5. 化学療法と副作用の看護			
		【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】			
19	2	手術室の環境			山口
20	2	手術室の安全管理 全身麻酔・局所麻酔			
21	2	麻酔時の看護			
22	2	滅菌 術後管理			
23	2	医療機器について 種類と原理 看護			山内
学習課題 (事前・事後)	配付資料で授業後に復習すること				
成績評価の方法	各詳細科目終了後、筆記試験を実施する。 1. 診察・検査に伴う看護 100点 2. 臨床検査 100点 3. 放射線療法及び化学療法時の看護 100点 4. 麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理 100点 最終評価 1. 2. 3. 4の評価点の平均とする。				
テキスト	【診察・検査に伴う看護】基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ(医学書院)【臨床検査】臨床検査(医学書院) 【放射線療法及び化学療法時の看護】臨床放射線(医学書院)臨床看護学総論(医学書院) 【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】臨床看護学総論(医学書院)臨床外科看護総論(医学書院)				
* 参考文献等					
学生へのメッセージ	この科目は実習で経験・見学する機会がありますので、配付資料などは実習で活用できるように整理しておきましょう。				
備考					

専門分野(基礎看護学)

授業科目	リハビリテーション看護論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	香西哲也		1 単位 30 時間	講義	1 年 後期
実務経験	理学療法士				
授業の概要	様々な健康障害に応じたリハビリテーションについて、演習を取り入れ授業を行なう。				
授業の到達目標	障害により生活機能や生活スタイルの変更を余儀なくされた対象者を理解し、リハビリテーション看護のあり方、具体的方法について学ぶ。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. リハビリテーション概論 障害とは		講義	香西
2	2	2. 障害受容、リハビリテーションの対象疾患			
3	2	3. 杖歩行の実際(松葉杖・1本杖)		講義・演習	
4	2	4. 心不全のリハビリテーション		講義	
5	2	5. 運動器疾患のリハビリテーション			
6	2	6. 関節可動域(ROM)と徒手筋力検査(MMT)について		講義・演習	
7	2	7. 呼吸リハビリテーションについて		講義	
8	2	8. 脳卒中リハビリテーションについて			
9	2	9. 糖尿病のリハビリテーションについて			
10	2	10. 移乗動作の実際		講義・演習	
11	2	11. 作業療法とは		講義	
12	2	12. 高次機能障害について			
13	2	13. ADL動作と自助具について			
14	2	14. 言語聴覚療法とは			
15	2	15. 嚥下、口腔ケアについて			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		筆記試験 100点			
テキスト * 参考文献等		【別巻】リハビリテーション看護(医学書院)			
学生へのメッセージ					
備考		現場で活躍しているリハビリスタッフ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)が講義をします。			

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	柳田 美香 ¹⁾ 高松 浩文 ²⁾ 丸尾 圭子 ³⁾		1 単位 15 時間	講義	1 年 後期
実務経験	1)看護師 看護教員 2)病院事務長 3)看護師				
授業の概要	在宅看護の意義およびその必要性と特性を理解する。八幡東区の特徴と地域で生活する対象の理解、社会資源の活用について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 在宅看護の意義と目的、看護師の役割が理解できる。 2. 在宅看護の歴史的変遷と制度の変化について理解できる。 3. 地域の特徴をふまえて地域で生活する人々の理解と社会資源の活用について学ぶ。 4. 家族をアセスメントする視点や地域社会との連携について理解できる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 在宅看護を取り巻く社会背景		講義	高松
		1) 医療・看護・介護の変容、多様化する看護活動			
2	2	2. 介護保険の仕組み		講義	
3	2	3. 訪問看護ステーションの仕組み、役割		講義	丸尾
4	2	4. 訪問看護の実際		講義	
5	2	5. 在宅看護の対象とその特徴		講義、GW	柳田
		1) 家族看護			
		2) 社会の変化			
6	2	6. 地域で生活するとは		講義	
		1) 地域包括ケアシステム、地域環境を知る			
7	2	7. 自分の暮らす地域を知る		演習、GW	
8	1	8. まとめ		講義	
学習課題 (事前・事後)	随時課題あり				
成績評価の方法	筆記試験、レポート課題等(授業態度については減点あり)				
テキスト * 参考文献等	地域・在宅看護論①②(医学書院) 国民衛生の動向 他				
学生へのメッセージ	自分が住んでいる地域や社会の情勢に興味を持って下さい。 家族とは何か、介護とは何か実生活の中で常に考えていけるようになりましょう。				
備考					

専門分野（地域・在宅看護論）

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	柳田 美香		1 単位 15 時間	講義	2年 前期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	地域で生活する様々な状況にある人々の、健康レベルに応じた生活支援、健康の保持増進、疾病予防の取り組み、サービスの実践を学ぶ。フィールドワークを通して地域の状況を理解し、地域づくりの対策を考える。				
授業の到達目標	地域で生活する人々の健康と暮らしを支える看護を学ぶ。地域で生活する障がい者および障がい児を支援するサービスの実際を知る。 1. 地域で生活する人々の暮らしを知る。 2. フィールドワークを通して地域包括ケアシステムが地域・暮らしの中でどの様に利用されているかを知る。 3. 地域における自助・互助の活動を知る。「ともに暮らす、ともに支える」地域の活動を考える。				
授業計画 (全 8 回)	授業内容			授業方法	担当
回数 時間					
1	2	1. 地域包括ケアシステムと地域共生社会			柳田
2	2	2. フィールドワークに向けての事前準備			
3	2	3. フィールドワーク活動 ①			
4	2	4. フィールドワーク活動 ②			
		1) 八幡東区の地域を理解する			
5	2	5. フィールドワーク後、発表準備 ①			
6	2	6. フィールドワーク後、発表準備 ②			
		2) 地域の持つ力とは何か、課題と解決方法を考える			
7	2	7. 発表			柳田
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)	随時課題あり				
成績評価の方法	講義やグループ活動の参加態度(20%) 課題提出(30%) 発表・レポート(50%) により評価する				
テキスト	地域・在宅看護の基盤(医学書院) 地域・在宅看護の実際(医学書院)				
* 参考文献等	GWで必要な情報収集を行って講義に臨むこと				
学生へのメッセージ	看護学校が位置する八幡東区の現状(良い面と改善すべき課題)を理解し、地域の方々ともコミュニケーションを図りながら、よりよく住みやすい地域づくりとは何かを考えましょう。				
備考					

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目		地域・在宅看護論Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		柳田 美香 ¹⁾ 小倉 直美 ²⁾ 他		2 単位 45 時間	講義	2年 前～後期
実務経験		1) 2) 看護師 看護教員				
授業の概要		1. 地域及び施設で生活するあらゆる世代の療養者を対象とし、在宅看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ 2. 在宅で生活する療養者と家族を支える訪問看護師の役割について学ぶ 3. 在宅で生活する医療依存度の高い難病や重度障害のある療養者、在宅ターミナルの看護の実際について学ぶ				
授業の到達目標		1. 在宅看護に必要な知識・技術・態度を理解する 2. さまざまな在宅看護技術を理解する 3. 医療依存度の高い療養者に対する看護の実際を理解する 4. 在宅で療養する障がい児・者の生活を支える看護の実際を理解する 5. 在宅ケアチームにおける多職種連携の実際と看護師の役割を知る				
授業計画 (全 23 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 在宅における訪問マナーとコミュニケーション			講義	柳田
2	2	2. 在宅におけるフィジカルアセスメント(呼吸機能に関する在宅看護技術)				
3	2	3. 在宅医における感染管理とリスクマネジメント				
4	2	4. 生活を支える在宅看護技術(清潔の援助技術)				
5	2	5. 生活を支える在宅看護技術(排泄の援助技術)				
6	2	6. 在宅における医学管理を必要とする人と看護(膀胱留置カテーテル)				
7	2	7. 在宅における医学管理を必要とする人と看護(経管栄養法)				
8	2	8. 在宅における医学管理を必要とする人と看護(在宅中心静脈栄養法)				
9	2	9. 在宅酸素療法を行っている療養者に対する看護 ①				
10	2	10. 在宅酸素療法を行っている療養者に対する看護 ②			講義・演習	
11	2	11. 在宅人工呼吸療法(NPPV療法)を行っている療養者に対する看護 ①				
12	2	12. 在宅人工呼吸療法(NPPV療法)を行っている療養者に対する看護 ②			講義 講義・GW	
13	2	13. 難病(ALS)の療養者に対する看護とTPPV療法 ①				
14	2	14. 難病(ALS)の療養者に対する看護とTPPV療法 ②				
15	2	15. 難病(ALS)の療養者に対する看護とTPPV療法 ③				
16	2	16. 難病(ALS)の療養者に対する看護とTPPV療法④				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)		次頁参照				
成績評価の方法		次頁参照				
テキスト * 参考文献等		次頁参照				
学生へのメッセージ		次頁参照				
備考						

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目		地域・在宅看護論Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		柳田 美香 ¹⁾ 小倉 直美 ²⁾ 他		2 単位 45 時間	講義	2年 前～後期
実務経験		1) 2) 看護師 看護教員				
授業の概要		前頁参照				
授業の到達目標		前頁参照				
授業計画 (全 23 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
17	2	17. 脊髄損傷の療養者に対する在宅看護の実際①			講義	柳田
18	2	18. 脊髄損傷の療養者に対する在宅看護の実際②			講義・GW	
19	2	19. 子どもの在宅療養			講義	
20	2	20. 在宅ターミナルケア①			講義	小倉
21	2	21. 在宅ターミナルケア②			講義	
22	2	22. 在宅ケアチームにおける看護師の役割と関係職種との連携			講義	院内講師
23	1	23. まとめ			講義	柳田
学習課題 (事前・事後)		1. 随時課題あり 2. 第1～12回の講義前・後は、1年次に履修した講義の授業資料やテキストを参考に、地域・在宅看護論Ⅱの講義内容と踏まえながら復習を行う。				
成績評価の方法		1. 中間試験:筆記試験 100点 2. 終講試験:筆記試験、レポートにて100点 (レポート提出日および発表日に欠課および欠席した者は減点とする)				
テキスト * 参考文献等		1. 地域・在宅看護の基盤(医学書院) 2. 地域・在宅看護の実際(医学書院) 他、随時資料配付				
学生へのメッセージ		1. 地域で生活する様々な療養者を理解し、在宅看護の特徴を学んでいきます。 2. 訪問看護師がどのような役割を担っているのか学び、患者・家族の生活や思いを尊重した看護」について一緒に考えていきましょう。				
備考						

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目		地域・在宅看護論Ⅲ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		柳田 美香 ¹⁾ 三輪 友大 ²⁾		1 単位 30 時間	講義	3年 前期
実務経験		1)看護師 看護教員 2)認知症介護指導者・施設管理者				
授業の概要		1. 退院支援、退院調整および他職種との連携について学ぶ 2. 事例を用いて療養者と家族のアセスメントを行い在宅看護過程の特徴を学ぶ 3. 地域で生活する認知症高齢者を理解する				
授業の到達目標		1. 退院支援、退院調整における看護師の役割を理解する 2. 他職種との連携および在宅ケアチームにおける看護師の役割を理解する 3. 在宅で生活する療養者と家族のニーズに応じた在宅看護の展開を理解する 4. 地域で生活する認知症高齢者を理解する				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 退院支援・退院調整、ケアマネジメント、他職種との連携について			講義	柳田
2	2	2. 在宅(訪問看護)における看護過程の特徴				
3	2	3. 事例の看護過程展開①			演習	
4	2	4. 事例の看護過程展開②				
5	2	5. 事例の看護過程展開③				
6	2	6. 事例の看護過程展開④				
7	2	7. 事例の看護過程展開⑤、発表				
8	2	8. 訪問看護の演習準備①			GW	
9	2	9. 訪問看護の演習準備②				
10	2	10. 訪問看護の演習準備③				
11	2	11. 訪問看護の演習発表①			演習	
12	2	12. 訪問看護の演習発表②				
13	2	13. 地域で生活する認知症高齢者の理解①			講義・演習	三輪
14	2	14. 地域で生活する認知症高齢者の理解②				
15	2	15. 地域で生活する認知症高齢者の理解③				
学習課題 (事前・事後)		1. 看護過程の講義では、既習したCOPDおよび在宅酸素療法について復習を行う 2. 訪問看護の演習では、提示した事例の疾患について自己学習を行う				
成績評価の方法		1. 筆記試験 75点 2. 看護過程、訪問看護の演習での発表および授業態度 25点				
テキスト		1. 地域・在宅看護の基盤(医学書院) 2. 地域・在宅看護の実際(医学書院)				
* 参考文献等		他、随時資料配布				
学生へのメッセージ		2年次に学んだことを踏まえながら、看護過程の展開を行っていきます。また、訪問看護演習を通し、訪問看護の実際を学び、実習に結びつけていけるようにしましょう。				
備考						

専門分野（地域・在宅看護論）

専門分野（地域・在宅看護論）		地域・在宅看護論Ⅳ	単位数	授業形態	開講時期
授業科目			1 単位		3年
担当教員		柳田 美香	15 時間	講義	前～後期
実務経験		看護師 看護教員			
授業の概要		在宅医療を支える訪問看護の役割について理解する			
授業の到達目標		1. 地域包括ケアシステムの中で在宅医療（訪問看護）の位置づけを知る 2. 地域包括ケアシステム実現につながる地域ケア会議（演習）を通じて多職種協働の必要性を知る 3. 理想的な自分たちの訪問看護ステーションを紙上に設置する			
授業計画 （全 8 回）		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
1	2	1. 求められる医療 地域包括ケアシステムについて	講義	柳田	
2	2	2. 訪問看護ステーション創設演習①	講義・GW		
3	2	3. 訪問看護ステーション創設演習②	GW		
4	2	4. 訪問看護ステーション創設演習③			
5	2	5. 訪問看護ステーション創設演習④			
6	2	6. 発表①	発表会		
7	2	7. 発表②			
8	1	8. まとめ	講義		
			</		

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	梅木 恵利		1 単位 30 時間	講義	1 年 後期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	成人期にある対象を生活者の視点からとらえ、その対象への看護の目的と機能を理解し健康の保持・増進に向けた支援について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 成長発達における成人期の特徴と発達課題を理解する。 2. 成人期の健康問題を生活との関連から理解し、その予防としての成人保健対策について理解する。 3. 成人期の健康問題を労働の面から考えその予防についての対策を理解する。 4. 成人看護に有用な理論を理解する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
1	2	1. 成人とは	講義	梅木	
2	2	2. 成人期の特徴			
3	2	3. 成人各期の発達課題			
4	2	4. 成人の生活			
5	2	5. 成人と取り巻く環境			
6	2	6. 生活習慣病とは			
7	2	7. 保健・医療・福祉施策と健康課題			
8	2	8. 健康を支援する社会政策			
9	2	9. 生活ストレスに関連する健康障害(ストレスとは)			
10	2	10. 労働に関する健康障害			
11	2	11. 慢性疾患を有する患者の特徴			
12	2	12. 慢性疾患を有する患者の看護			
13	2	13. 成人看護に用いられる理論①ストレスコーピング理論			
14	2	14. 成人看護に用いられる理論②自己効力理論・危機理論			
15	2	15. 成人看護に用いられる理論③成人学習理論			
学習課題 (事前・事後)	1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴のまとめ 2. 事例検討				
成績評価の方法	1. 終講試験 100点（筆記試験80点 態度および課題評価点20点） 2. 課題評価 提出期限に遅れた場合は減点とする。 3. 態度評価 授業中の私語・居眠りは減点とする。				
テキスト * 参考文献等	1. 成人看護学総論(医学書院) 2. 国民衛生の動向（厚生統計協会）				
学生へのメッセージ	身近にいる成人期の方々の生活や健康に興味関心をもつことから始めましょう。 成人看護に有用な理論は臨地実習での看護実践に活かせます。				
備考					

専門分野（成人看護学）

授業科目		成人看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		山口 和子 ¹⁾ 中村 まい ²⁾ 【急性期看護】 兼川 五月 ³⁾ 【周手術期看護】		1 単位 45 時間	講義・演習	2年 前期
実務経験		1)救急看護認定看護師 2)クリティカルケア認定看護師 3)看護師 看護教員				
授業の概要		1. 急性期看護の概念および特徴を理解する。 2. 救急救命に関する知識および技術を学ぶ。 3. 災害時における看護の役割を学ぶ。 4. 手術療法を受ける対象の看護を学ぶ。				
授業の到達目標		1. 急性期の対象の特徴と看護の特性を理解する。 2. 成人の救急蘇生法及び救急救命における看護の役割について理解する。 3. 集中治療室における対象の危機的状況及び看護について理解する。 4. 演習をとおして基礎的な救急蘇生法の手技を習得する。 5. 周手術期各期の看護を理解する。 6. 手術侵襲を受けた生体の反応について理解する。7. 術後合併症予防の看護について理解する。				
授業計画 (全 23 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【急性期看護】				
1	2	1. 急性期における対象の理解			講義	山口
2	2	2. 救命救急看護				
3	2	3. 救命救急看護 処置技術 家族看護				中村
4	2	4. 集中治療を必要とする患者の看護				
5	2	5. BLS・止血法			演習	山口
6	2	6. BLS・止血法				
7	2	7. 災害看護			講義	中村
		【周手術期看護】				
8	2	1. 周術期看護 概論			講義	兼川
9	2	2. 手術前患者の看護 ①				
10	2	3. 手術前患者の看護 ②				
11	2	4. 手術中患者の看護 ①				
12	2	5. 手術中患者の看護 ②				
13	2	6. 術後患者の看護 ①				
14	2	7. 術後患者の看護 ②				
15	2	8. 術後患者の看護 ③				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)		次頁参照				
成績評価の方法		次頁参照				
テキスト * 参考文献等		次頁参照				
学生へのメッセージ						
備考						

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	山口 和子 ¹⁾ 中村 まい ²⁾ 【急性期看護】 兼川 五月 ³⁾ 【周手術期看護】		1 単位 45 時間	講義・演習	2年 前期	
実務経験	1)救急看護認定看護師 2)クリティカルケア認定看護師 3)看護師 看護教員					
授業の概要	1. 急性期看護の概念および特徴を理解する。 2. 救急救命に関する知識および技術を学ぶ。 3. 災害時における看護の役割を学ぶ。 4. 手術療法を受ける対象の看護を学ぶ。					
授業の到達目標	v1. 急性期の対象の特徴と看護の特性を理解する。 2. 成人の救急蘇生法及び救急救命における看護の役割について理解する。 3. 集中治療室における対象の危機的状況及び看護について理解する。 4. 演習をとおして基礎的な救急蘇生法の手技を習得する。 5. 周手術期各期の看護を理解する。 6. 手術侵襲を受けた生体の反応について理解する。7. 術後合併症予防の看護について理解する。					
授業計画 (全 23 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
16	2	9. 手術侵襲と生体反応			講義 GW 演習 講義	兼川
17	2	10. 食道再建術を受ける患者の看護				
18	2	11. 胃切除術を受ける患者の看護				
19	2	12. 胃切除を受ける患者の術後の観察				
20	2	13. 胃切除を受ける患者の術後の観察				
21	2	14. 胃切除を受ける患者の術後の観察				
22	2	15. 胃切除を受ける患者の術後の観察				
23	1	まとめ				

専門分野（成人看護学）

授業科目		成人看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		梅木 恵利 ¹⁾ (呼吸機能障害) 豊永 真理子 ²⁾ (腎機能障害) 鳥取 和代 ³⁾ (内分泌・栄養代謝障害)		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験		1)看護師 看護教員 2)看護師 3)糖尿病看護認定看護師				
授業の概要		慢性期にある対象の看護を学ぶ。 機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診る I で学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。				
授業の到達目標		1.【呼吸機能障害の看護】 1)呼吸機能障害のある対象を理解し、対象に必要な看護を学ぶ 2)慢性期の呼吸機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。 2.【内分泌・栄養代謝障害の看護】 1)内分泌・栄養代謝障害のある対象を理解し、対象に必要な看護を学ぶ。2)腎機能障害のある対象を理解し、必要な看護を学ぶ。3)慢性期の腎機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【呼吸機能障害の看護】				
1	2	1. 呼吸機能検査および検査を受ける患者の看護			講義	梅木
2	2	2. 気管支喘息患者の看護				
3	2	3. 慢性閉塞性疾患患者の看護①				
4	2	4. 慢性閉塞性疾患患者の看護②				
5	2	5. 胸腔ドレナージを受ける患者の看護				
		【内分泌・栄養代謝障害の看護】				
6	2	1. 食事療法時の看護			講義	鳥取
7	2	2. 運動療法時の看護				
8	2	3. 薬物療法時の看護				
9	2	4. 糖代謝障害の主な合併症についてとその看護①				
10	2	5. 糖代謝障害の主な合併症についてとその看護①				
学習課題 (事前・事後)		次頁参照				
成績評価の方法		次頁参照				
テキスト * 参考文献等		次頁参照				
学生へのメッセージ		次頁参照				
備考						

専門分野（成人看護学）

専門分野（成人看護学）		成人看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
授業科目					
担当教員		梅木 恵利 ¹⁾ (呼吸機能障害) 豊永 真理子 ²⁾ (腎機能障害) 鳥取 和代 ³⁾ (内分泌・栄養代謝障害)	1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験		1)看護師 看護教員 2)看護師 3)糖尿病看護認定看護師			
授業の概要		慢性期にある対象の看護を学ぶ。 機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅠで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。			
授業の到達目標		3.【腎機能障害の看護】 1)腎臓の働きと症状が起こるメカニズムを想起する。 2)腎機能障害のある対象を理解し、必要な看護を学ぶ。 3)慢性期の腎機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。			
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		【腎機能障害】			
11	2	1. 腎機能障害患者の看護		講義	豊永
12	2	2. 透析療法時の看護			
13	2	3. 症状に応じた看護①			
14	2	4. 症状に応じた看護②			
15	2	5. 検査・処置時の看護			
学習課題 (事前・事後)		1. 授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う。 2. 看護の視点で病気をみるⅠで学んだことを復習する。 3. 看護の視点で病気をみるⅠで学習した病態生理用紙を活用する。			
成績評価の方法		1.【呼吸機能障害】1)筆記試験 100点 2)授業態度（授業を受ける姿勢と必要物品の忘れ物も含む） 2.【内分泌・栄養代謝障害】筆記試験 100点 3.【腎機能障害】筆記試験 100点 最終評価 1. 2. 3の評価点の平均とする。			
テキスト * 参考文献等		1.【呼吸機能障害】1)成人看護学2 呼吸器(医学書院) 2)基礎・臨床看護技術(医学書院) 2.【内分泌・栄養代謝障害】1)成人看護学6 内分泌・代謝(医学書院) 2)解剖生理学(医学書院) 3.【腎機能障害】1)成人看護学8 腎・泌尿器(医学書院)			
学生へのメッセージ		呼吸は人間が生きていく上でとても大切な働きです。何らかの原因により呼吸機能が障害された患者の特徴を理解し、どのようなことに注意しながら看護を行なう必要があるのかを一緒に学んでいきましょう。内分泌・栄養代謝・腎機能についても同様です。			
備考					

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅲ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	永野薫 ¹⁾ 【循環機能障害の看護】 亀田裕美 ²⁾ ・杉山菜々子 ³⁾ 【運動器障害の看護】		1 単位 30 時間	講義	1 年 後期	
実務経験	1)2)看護師 看護教員 3)看護師					
授業の概要	回復期にある対象の特徴を理解し、ADL拡大や自立への看護を学ぶ。機能障害のある患者の看護では看護の視点で病気をみるⅠで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて、患者の回復過程を整える看護について学ぶ。					
授業の到達目標	1. 循環機能障害をもつ患者の特徴を理解し、その症状に応じた看護を学ぶ。 2. 疾病とその運動器障害をもつ患者の特徴と看護を総合的に理解する。 3. グループワークを通して主体的に学ぶ姿勢を習得する。また、発表会に参加することで、他のグループの疾患を理解する。					
授業計画 (全15回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【循環機能障害の看護】				
1	2	1. 循環機能障害患者の理解			講義	永野
2	2	2. 症状に応じた看護				
3	2	3. 症状に応じた看護				
4	2	4. 検査・処置を受ける患者への看護				
5	2	5. 検査・処置を受ける患者への看護				
6	2	6. 虚血性心疾患患者の看護			講義・演習	
7	2	7. 虚血性心疾患患者の看護				
8	2	8. 心不全患者の看護			講義	
9	2	9. 心不全患者の看護				
10	2	10. 治療を受ける患者への看護				
		【運動器障害の看護】				
11	2	1. 大腿骨幹部骨折(骨接合術)患者の看護			講義	亀田 杉山
12	2	2. 大腿骨幹部骨折(骨接合術)患者の看護				
13	2	3. 腰椎圧迫骨折患者の看護				
14	2	4. 腰椎圧迫骨折患者の看護				
15	2	5. 橈骨遠位端骨折患者の看護				
学習課題 (事前・事後)		看護の視点で病気をみるⅠで作成した病態生理用紙を活用し、学んだことを復習する。 授業後、自宅で必ずテキストを読み復習を行う。 運動器は作成した資料・パワーポイントを使い発表の準備をしておく。発表翌日に学習した資料一式を提出する。				
成績評価の方法		1. 【循環機能障害】筆記試験100点 ※課題学習等評価に含めることもあります。 2. 【運動器障害】筆記試験80点・自己学習ファイル提出10点 プレゼンテーション10点で評価を行なう。 (筆記試験には、看護の視点で病気をみるⅠの運動器障害の内容も含む) 3. 最終評価 1・2の評価点の平均となる。				
テキスト * 参考文献等		1. 専門Ⅱ 循環器 成人看護学 医学書院 2. 専門Ⅱ 運動器 成人看護学 医学書院				
学生へのメッセージ		循環器および運動器に疾患を持ち、なんらかの機能に問題がある人及びその家族に対する看護について興味を持って学びましょう。				
備考						

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅳ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	櫻木 ゆり ¹⁾ 岩松香菜子 ²⁾ 【脳神経障害】 鶴留 文代 ³⁾ 【排泄機能障害】 梅木 恵利 ⁴⁾ 【感覚器障害】		1 単位 30 時間	講義・演習	2年 前期	
実務経験	1)2)摂食嚥下認定看護師 3)皮膚排泄認定看護師 4)看護師 看護教員					
授業の概要	回復期にある対象の看護を学ぶ。機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅡで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。					
授業の到達目標	1.【脳神経障害の看護】 脳神経障害をもつ対象の特徴を理解し、症状に応じた看護と生活の再構築についてを学ぶ。 2.【排泄機能障害の看護】 排泄機能障害をもつ対象の特徴を理解し、症状に応じた看護を学ぶ。					
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当	
回数	時間					
		【脳神経障害】				
1	2	1. 主な症状・病態に対する看護		講義	岩松 櫻木	
2	2	2. 主な検査・処置の看護				
3	2	3. 咀嚼・嚥下・口腔ケアの実際①				
4	2	4. 咀嚼・嚥下・口腔ケアの実際②				
5	2	5. 障害に応じた看護①				
6	2	6. 障害に応じた看護②				
7	2	7. 脳血管障害患者の看護①		演習		
8	2	8. 脳血管障害患者の看護②				
		【排泄機能障害】				
9	2	1. 排泄機能障害の看護		講義	鶴留	
10	2	2. 手術後看護と合併症				
11	2	3. 排尿機能障害の看護				
12	2	4. ストーマケアの実際 社会福祉				
13	2	5. ストーマサイトマーキングとストーマ管理		演習		
学習課題 (事前・事後)	次項参照					
成績評価の方法	次項参照					
テキスト * 参考文献等	次項参照					
学生へのメッセージ	次項参照					
備考	次項参照					

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅳ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	櫻木 ゆり ¹⁾ 岩松香葉子 ²⁾ 【脳神経障害】 鶴留 文代 ³⁾ 【排泄機能障害】 梅木 恵利 ⁴⁾ 【感覚器障害】		1 単位 30 時間	講義・演習	2年 前期	
実務経験	1)2)摂食嚥下認定看護師 3)皮膚排泄認定看護師 4)看護師 看護教員					
授業の概要	回復期にある対象の看護を学ぶ。機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅡで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。					
授業の到達目標	3.【感覚器障害】 1)感覚器は、人間が生きていく上でそのひとらしく生活するために重要な役割を果たしていることを理解する。 2)感覚器障害における検査や治療に伴う看護を理解する。					
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数	時間					
		【感覚器障害】				
14	2	1. 口腔・咽頭・喉頭障害がある患者の看護			講義	梅木
15	2	2. 皮膚の物理・化学的機能に障害がある患者の看護				
学習課題 (事前・事後)	1. 授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う。					
成績評価の方法	1.【脳神経障害】筆記試験 2.【排泄機能障害】筆記試験 3.【感覚器障害】筆記試験(看護の視点で病気をみるⅡの感覚器障害の内容も含む)					
テキスト *参考文献等	1.【脳神経障害】成人看護学7 脳・神経(医学書院) 2.【排泄機能障害】1)成人看護学8 腎・泌尿器(医学書院) 2)臨床看護学外科各論(医学書院) 3.【感覚器障害】1)成人看護学12 皮膚 2)成人看護学13 眼 3)成人看護学14 耳鼻咽喉(医学書院)					
学生へのメッセージ	1年次に習得した看護の視点で病気を診るⅡを想起して、機能障害のある患者の理解につなげて欲しい。 感覚器においては実習ではかかわることが少ない患者の症状を短時間で学習するので、課題を活用して臨んでください。					
備考	認定看護師(摂食・嚥下障害、皮膚・排泄ケア)の資格を持った講師が授業を行なう。 【脳神経障害】【排便機能障害】【感覚器障害】の3回の筆記試験の平均が最終評価点となる。					

専門分野（成人看護学）

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅴ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	首藤麻里 ¹⁾ 小倉直美 ²⁾ （終末期・がん看護） 工藤加奈子 ³⁾ （消化機能障害）（血液・造血機能障害）		1 単位 30 時間	講義・演習	2年 前～後期
実務経験	1)緩和ケア認定看護師 2)3)看護師 看護教員				
授業の概要	終末期にある対象の特徴を理解し、安楽・安寧を目指す終末期看護の特性を学ぶ。また、機能障害のある患者の看護では看護の視点で病気をみるⅡで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて、患者の回復過程を整える看護について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 終末期看護、がん看護について理解する。 2. 消化機能障害をもつ対象の特徴を理解し、その症状に応じた看護を学ぶ。 3. 血液・造血器機能障害をもつ対象の特徴を理解し、その症状に応じた看護を学ぶ。				
授業計画 （全15回）	授業内容			授業方法	担当
回数					
		【終末期看護・がん看護】			
1	2	1. 緩和ケアの現状と展望	講義	首藤	
2	2	2. 緩和ケアにおけるコミュニケーション			
3	2	3. 緩和ケアにおける倫理的課題			
4	2	4. 全人的ケア 1)身体的苦痛	講義	小倉	
		2)心理的苦痛			
5	2	3)社会的苦痛			
		4)スピリチュアルペイン			
6	2	5. 臨死期のケア 6. 家族ケア			
7	2	7. エンゼルケア 8. アドバンス・ケア・プランニング			
		次頁参照			
学習課題 （事前・事後）	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ	次頁参照				
備考					

専門分野（成人看護学）

専門1分野（成人看護学）		授業科目	成人看護学Ⅴ	単位数	授業形態	開講時期
		担当教員	首藤麻里 ¹⁾ 小倉直美 ²⁾ （終末期・がん看護） 工藤加奈子 ³⁾ （消化機能障害）（血液・造血機能障害）	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 前～後期
		実務経験	前頁参照			
		授業の概要	前頁参照			
		授業の到達目標	前頁参照			
		授業計画 （全15回）	授業内容		授業方法	担当
回数	時間					
		【消化機能障害】				
8	2	1. 肝臓の構造と機能	講義・演習	工藤		
9	2	2. 肝硬変の主要症状（病態、肝機能を統合して考える）				
10	2	3. 主要症状と看護①（黄疸、肝性脳症）				
11	2	4. 主要症状と看護②（門脈圧亢進症状）				
12	2	5. 肝硬変代償期の看護				
13	2	6. 肝硬変非代償期の看護				
		【血液・造血機能障害】				
14	2	1. 急性骨髄性白血病患者の特徴と看護	講義・演習	工藤		
15	2	2. 造血幹細胞移植とその看護				
		学習課題 （事前・事後）	【終末期・がん看護】テキストを読み、復習を行う。【消化機能障害】ワークシートの完成 【血液・造血器】ワークシートの完成			
		成績評価の方法	1. 【終末期・がん看護】筆記試験 首藤 40点（3回目終了後）小倉 60点（7回目終了後）の合計点で評価する。 2. 【消化機能障害】筆記試験 100点 授業態度 3. 【血液・造血機能障害】筆記試験 100点 授業態度 最終評価 1. 2. 3. の評価点の平均とする。			
		テキスト	専門Ⅱ 緩和ケア 医学書院 専門Ⅱ 消化器 医学書院 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院			
		* 参考文献等				
		学生へのメッセージ	＜終末期・がん看護＞人生の終焉を迎える患者とその家族への理解、看護の在り方について学びましょう			
		備考				

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	宮川 智子 ¹⁾ 大西 輝彰 ²⁾ 佐土島 悠 ³⁾		1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 前期～後期
実務経験	1)看護師 看護教員 2)介護支援専門員 3)社会福祉士・介護支援専門員				
授業の概要	老年期にある対象の変化を知り、高齢者のライフステージとその健康課題を学ぶ。 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 高齢者の身体的、精神的、社会的変化を知り、ライフステージとその健康問題を理解する。 2. 社会構造の変化や人口の変化及び高齢者・家族を取り巻く保健医療福祉制度を理解する。 3. 高齢者の尊厳とQOLを尊重した支援について理解する。				
授業計画 (全 15 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 導入		講義	宮川
2	2	2. ライフサイクル「祖父母のライフヒストリーの語りを聞く」		GW	
3	2	3. 加齢に伴う身体的変化			
4	2	4. 加齢に伴う身体的変化		グループ発表	
5	2	5. 加齢に伴う身体的変化 生活の視点から老年期を理解する(高齢者体験)		演習	
6	2	6. 加齢に伴う身体的変化 生活の視点から老年期を理解する(高齢者体験)			
7	2	7. 人口学的指標から老年期を理解する		講義	佐土島
8	2	8. 人口学的指標から老年期を理解する			
9	2	9. 高齢者の生活の場を理解する			
10	2	10. 高齢者虐待・成年後見制度			
11	2	11. 介護保険制度について			
12	2	12. 医療保険制度と権利擁護			
13	2	13. 生活・療養の場における看護①			大西
14	2	14. 生活・療養の場における看護②			
15	2	15. 生活・療養の場における看護③			
学習課題 (事前・事後)	宮川「祖父母のライフヒストリーの語りを聞く」夏休み前に課題提示、他講義の中で提示する。				
成績評価の方法	1. 宮川 筆記試験＋課題レポート＋マトリックス作成＝100点 ※課題提出期限に遅れた場合は減点対象とする。 2. 大西・佐土島:筆記試験100点 最終評価 1. 2の評価点の平均とする				
テキスト *参考文献等	専門分野 老年看護学(医学書院) 国民衛生の動向(厚生統計協会)				
学生へのメッセージ	加齢に伴う変化は、成人期の皆さんにはまだまだ未知の世界だと思います。様々な事に興味関心を持ち、視野を広げて、自分ではない他者を理解できるように一緒に学習していきましょう。				
備考	レポート様式:A4レポート1枚程度 表題・学年・出席番号・氏名を明記する。パソコン使用可。				

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	宮川 智子		2 単位 30 時間	講義	2年 前期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	老化により日常生活が障害された対象の看護を学ぶ。また、健康障害を持った老年期にある対象を、生活機能の視点からアセスメントし残存機能の視点からアセスメント残存機能を活かした援助を習得する。				
授業の到達目標	1. 老化による日常生活上の障害をアセスメントし、その看護に必要な知識を習得する。 2. 健康障害を持った老年期にある対象を、生活機能の視点からアセスメントし、残存機能を活かした援助技術を習得する。				
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当
回数	時間				
1	2	導入			宮川
2	2	1. 高齢者の生活を整える看護			
3	2	1)食事の看護ケア			
4	2	2)排泄の看護ケア			
5	2	3)清潔の看護ケア			
6	2	4)高齢者の生活を整える看護ケアの実践			
7	2	2. 転倒やその他の事故とアセスメントと看護			
8	2	転倒予防のロールプレイング			
9	2	3. 健康逸脱からの回復を促す看護(脱水症・骨粗鬆症パンフレット作成説明)			
10	2	1)痛み・痒痒・浮腫			
11	2	2)睡眠障害・うつ・せん妄			
12	2	3)パーキンソン病・感染症			
13	2	4)脱水症・骨粗鬆症(パンフレット作成)			
14	2	脱水症・骨粗鬆症パンフレット発表			
15	2	高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法			
学習課題 (事前・事後)	マトリックス・パンフレット作成				
成績評価の方法	筆記試験・小テスト・グループワーク・課題演習の成果を含めて評価とする。 課題提出期限に遅れた場合は減点対象とする。				
テキスト * 参考文献等	専門 老年看護学 医学書院				
学生へのメッセージ	主体的に授業に参加し、自ら思考し、課題解決できるようにしましょう。				
備考					

専門分野（老年看護学）

授業科目		老年看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		宮川 智子 ¹⁾ ・内村 香代子 ²⁾		1 単位 30 時間	講義	2年 後期
実務経験		1)看護師 看護教員 2)大学助教 認知症看護認定看護師				
授業の概要		治療を必要とする高齢者の看護及び高齢者のエンドオブライフケア・退院支援・認知症看護について理解する。 また、終末期看護を通して高齢者の尊厳と意思決定への支援のあり方を理解する。				
授業の到達目標		1. 治療を必要とする高齢者の看護について理解する。 2. 高齢者のエンドオブライフケアを通して高齢者の尊厳と意思決定への支援のあり方を理解する。 3. 高齢者の退院支援について理解する。 4. 認知症高齢者の看護について理解する。 5. ペーパーペイシエントでの看護過程の展開				
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護			講義・GW	宮川
2	2	与薬の看護の実際			演習	
3	2	2. 手術療法を受ける高齢者の看護			講義・GW	
4	2	手術療法を受ける高齢者の合併症			講義・GW	
5	2	3. 高齢者のエンドオブライフケア			講義	
6	2	高齢者の終末期における倫理的問題について考える			DVD・GW	
7	2	4. 高齢者の退院への支援			講義	内村
8	2	5. 認知症について			講義(ZOOM)	
9	2	1)認知症の行動・心理症状への対応				
10	2	2)認知症高齢者とのコミュニケーション				
11	2	3)認知症高齢者と家族の社会支援			講義・演習	宮川
12	2	6. 看護過程の展開①事例提示・病態生理用紙(認知症)・基本情報シート作成				
13	2	看護過程の展開 ②検査・治療シート・生命過程・生活過程作成				
14	2	看護過程の展開 ③ケアの方向性・看護計画作成				
15	2	看護過程の展開 ④看護過程発表			発表	
学習課題 (事前・事後)		看護過程は、事前に事例を提示する為、各自、自宅課題として期日までに提出できるように計画的に取り組む。				
成績評価の方法		筆記試験・小テスト・グループワーク・課題演習の成果を含めて評価とする。課題提出期限に遅れた場合は減点対象とする。				
テキスト		専門 老年看護学 医学書院				
*参考文献等						
学生へのメッセージ		主体的に授業に参加し、自ら思考し、課題解決できるようにしましょう。				
備考						

専門分野(小児看護学)

授業科目	小児看護学概論		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	藤田 直子 ¹⁾ 秦 愛美 ²⁾		2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 後期	
実務経験	1) 看護師 看護教員 2)看護師 助産師					
授業の概要	当該科目では、子どもの理解に重点をおき、「子どもとは」を問い続ける。子どもの身体的発達、認知・社会的発達、養育者との関係性について捉えた上で子どもを個として尊重できる態度を養う。					
授業の到達目標	1. 小児看護学で用いられる概念と理論を理解する。 2. 小児各期の子どもの成長・発達と看護について理解する。 3. 健康障害をもつ子ども・家族への看護について理解する。					
授業計画 (全 23 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
1	2	1. 小児看護の目ざすところ・小児看護の変遷・小児看護における倫理			講義	藤田
2	2	2. 小児看護の課題 児童福祉 母子保健 子どもの虐待と看護				
3	2	3. 小児と家族の諸統計 第6章子どものとつての家族とは 家族アセスメント			講義・演習	
4	2	4. 児童福祉 母子保健				
5	2	5. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ①			講義	
6	2	6. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ②				
7	2	7. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ③				
8	2	8. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ④				
9	2	9. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ⑤				
10	2	10. 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達 ⑥				
11	2	11. 子どもの成長・発達まとめ			講義・演習	
12	2	12. 病気・障害が子ども、家族に与える影響 健康問題を持つ子どもと家族の看護			講義	
13	2	13. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院中の子どもと家族の看護)				
14	2	14. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院中の子どもと家族の看護)				
15	2	15. 在宅療養中の子どもと家族の看護			講義	
16	2	16. 在宅療養中の子どもと家族の看護				
		次頁参照				
学習課題 (事前・事後)	次頁参照					
成績評価の方法	次頁参照					
テキスト	次頁参照					
* 参考文献等						
学生へのメッセージ						
備考						

専門分野(小児看護学)

授業科目	小児看護学概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	藤田 直子 ¹⁾ 秦 愛美 ²⁾		2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 後期
実務経験	1) 看護師 看護教員 2) 看護師 助産師				
授業の概要	当該科目では、子どもの理解に重点をおき、「子どもとは」を問い続ける。子どもの身体的発達、認知・社会的発達、養育者との関係性について捉えた上で子どもを個として尊重できる態度を養う。				
授業の到達目標	1. 小児看護学で用いられる概念と理論を理解する。 2. 小児各期の子どもの成長・発達と看護について理解する。 3. 健康障害をもつ子ども・家族への看護について理解する。				
授業計画 (全 23 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
17	2	17. 災害時の子どもと家族の看護		講義	藤田
18	2	18. 急性期にある子どもと家族の看護			
19	2	19. 周手術期の子どもと家族の看護			
20	2	20. 慢性期にある子どもと家族の看護			
21	2	21. 終末期にある子どもと家族の看護			
22	2	22. ・障害をもつ子どもと家族の看護まとめ			
23	1	23. まとめ			
学習課題 (事前・事後)	事前に配布した資料は目を通し授業に臨み、授業後には、必ずテキスト、資料を読み復習を行うこと。				
成績評価の方法	1. 中間試験 100点 (筆記試験80点 態度および課題評価点20点) 2. 終講試験 100点 (筆記試験80点 態度および課題評価点20点) 3. 課題評価 提出期限に遅れた場合は減点とする。態度評価 授業中の私語・居眠りは減点とする。 4. 単元ごとに小テストを実施し終講試験に加点する。小テストの別日受験は認めない。 5. 最終評価 1. 2の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等	1. 小児看護学概論 医学書院 2. 小児臨床看護学総論 医学書院 3. 小児臨床看護学各論 医学書院 4. 子供の病気の地図帳 講談社 5. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
学生へのメッセージ					
備考	中間試験は、11回目の講義終了後、終講試験は23回目の講義終了後に実施する。				

専門分野(小児看護学)

授業科目	小児看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	藤田直子		1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 前期～後期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	当該科目では、健康障害を持つ子どもが発達課題をクリアしていくことの大変さを理解した上で、子どもと家族の持てる力を活かした支援方法を検討し、実践する能力を育成する。				
授業の到達目標	1. 子どもの入院環境を調整する技術を習得する。 2. 子どものアセスメントに必要な技術を習得できる。 3. 検査・処置を受ける子どもの看護技術が習得できる。				
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. シラバス説明, 看護過程導入①			講義・個人ワーク
2	2	2. 環境を調整する技術 ・事故を防止する入院環境づくり			演習・GW
3	2	3. アセスメントに必要な技術(バイタルサイン・聴診法)			講義
4	2	4. バイタルサイン・聴診法演習			演習
5	2	5. 事例の看護過程展開②			個人ワーク
6	2	6. 事例の看護過程展開③			
7	2	7. 事例の看護過程展開④			
8	2	8. 事例の看護過程展開⑤ グループ発表			
9	2	9. 食事の援助技術 ・調乳方法・離乳食とは ・経管栄養法など			講義
10	2	10. 清潔・排泄・衣生活の援助技術			講義・演習
11	2	11. 検査処置を受ける子どもの看護①(与薬・輸液・抑制(点滴固定法含む))			講義
12	2	12. 抑制法・点滴固定法について			演習・GW
13	2	13. 救命救急の技術(救急蘇生法・気道異物の除去)			講義・演習
14	2	14. 検査処置を受ける子どもの看護②(採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺等)			演習
15	2	15. まとめ			講義
学習課題 (事前・事後)	事前に配布した資料は目を通し授業に臨み、授業後には、必ずテキスト、資料を読み復習を行うこと。				
成績評価の方法	1. 筆記試験70点＋レポート10点＋課題10点＋看護過程10点＝100点 2. 課題評価 提出期限に遅れた場合は減点とする。態度評価 授業中の私語・居眠りは減点とする。				
テキスト	1. 小児看護学概論 医学書院 2. 小児臨床看護学総論 医学書院 3. 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院 4. 子供の病気の地図帳 講談社 * 参考文献等 5. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野(小児看護学)

授業科目	小児看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	魚住 友彦		1 単位 30 時間	講義	2年 前期	
実務経験	小児科医師					
授業の概要	未成熟な子どもの器官や機能および特有の症状・徴候をアセスメント出来る能力を習得し、看護の方法を導くことができるよう応用力をつけることの必要性を学ぶ。					
授業の到達目標	1. 病気の全体像を概観し、体の構造・はたらきと病気の関係を学ぶとともに、発達期から子どもの体と病気を捉えることが出来る。 2. 子ども特有の症状・徴候を学び、基礎看護技術や小児看護学概論と関連させ、小児看護の特性を理解する足がかりとすることが出来る。					
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
1	2	1. 先天性異常 発達障害			講義	魚住
2	2	2. 消化吸収機能				
3	2	3. 内分泌機能				
4	2	4. 排泄機能				
5	2	5. 呼吸機能				
6	2	6. 防衛調整機能				
7	2	7. 循環機能				
8	2	8. 造血機能				
9	2	9. 悪性新生物				
10	2	10. 母子感染 未熟児 新生児				
11	2	11. 精神、脳神経機能				
12	2	12. 遺伝子				
13	2	13. ウィルス				
14	2	14. 細菌				
15	2	15. アレルギー				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法	筆記試験 100点					
テキスト * 参考文献等	こどもの病気の地図帳(講談社)					
学生へのメッセージ						
備考						

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学概論		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	前川礼子 ¹⁾ 福田詩子 ²⁾		1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後期	
実務経験	1) 2) 看護師 助産師					
授業の概要	母性看護学概論では、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病の予防を目的とした看護の基礎として、母性看護の役割、母性看護を実践するための考え方や方向性、社会の現状や課題への取り組みを学ぶ。また、女性の権利や責任・倫理についても学ぶ。					
授業の到達目標	1. 母性および母性看護の概念、人間の性と生殖について理解する。 2. 母子保健の動向と対策を理解し、母性を取り巻く社会の問題について考える。 3. ライフサイクル各期の健康問題と看護について学ぶ。 4. リプロダクティブヘルスに関する諸問題の看護について学ぶ。					
授業計画 (全15回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
1	2	1. 母性看護の意義と役割 母性看護の対象			講義	福田
2	2	2. リプロダクティブヘルス/ライツ 女性の自己決定を支える看護				
3	2	3. セクシュアリティの分化と発達 人間の性と特徴				
4	2	4. 母子看護における倫理			講義・GW	
5	2	5. 母子保健統計の動向と母子保健施策			講義	
6	2	6. 母性看護に関する組織と法律			講義・GW	
7	2	7. 女性のライフサイクルと家族 母性を取り巻く社会の現状			講義	前川
8	2	8. 思春期の健康問題と看護			講義	
9	2	9. 成熟期の健康問題と看護				
10	2	10. 更年期の健康問題と看護				
11	2	11. 老年期の健康問題と看護			講義・GW	
12	2	12. 性感染症・HIV・避妊方法				
13	2	13. 人工妊娠中絶 性暴力 DV				
14	2	14. 女性の喫煙 国際化と母子家庭			講義	
15	2	15. 災害時の妊産婦と家族の支援				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法	1. 中間試験(1回目～7回目) 100点 筆記試験 + レポート課題「母性を取り巻く社会の現状と課題」 2. 終講試験(8回目～15回目) 100点 筆記試験 + グループワーク参加態度及び課題 最終評価 1. 2の評価点の平均とする。					
テキスト	母性看護学 I (医学書院) 母性看護学概論 (医学書院)					
* 参考文献等						
学生へのメッセージ	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基本に、女性の生き方や権利・健康について学びます。まず自分のこと、友人・家族のこと、患者さんのこととして身近な問題から考えていきましょう。					
備考						

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	福田詩子 ¹⁾ 後藤元子 ²⁾		1 単位 15 時間	講義	2年 前期
実務経験	1)2)看護師 助産師 2)看護師 助産師				
授業の概要	女性のライフサイクル各期の健康問題、女性生殖器疾患を対象とした看護で、対象を取り巻く社会の背景を理解し身体的、心理的、社会的問題を捉える必要がある。疾患そのものがセクシュアリティに関連し、生殖器・乳房の喪失によるボディーイメージの障害と女性性の喪失感、パートナーを含めた支援の大切さを学ぶ。				
授業の到達目標	1. 女性生殖器機能障害、機能喪失患者を理解し、身体的、精神的、社会的問題を捉える。 2. 診察・検査と治療・処置の看護及び留意点を学ぶ。 3. 女性生殖器疾患の病態と治療、看護を理解する。 4. 乳がん患者の理解と治療、看護を学ぶ。				
授業計画 (全 8 回)	授業内容			授業方法	担当
回数 時間					
1	2	1. 女性生殖器機能障害・機能喪失感患者の理解	講義	福田	
2	2	2. 診察・検査と治療・処置の看護			
3	2	3. 女性生殖器疾患の症状および病態の理解			
4	2	4. 女性生殖器の主な疾患の治療と看護			
5	2	5. 女性生殖器疾患の術前・術後の看護			
6	2	6. 乳がん患者の理解			
7	2	7. 乳がん患者の治療と看護		後藤	
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法	1. 福田 筆記試験 100点(5回目終了後) 2. 後藤 筆記試験 100点(8回目終了後) 最終評価 1. 2の評価点の平均とする。				
テキスト	成人看護学 9 女性生殖器 医学書院				
* 参考文献等					
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	廣渡 理枝 ¹⁾ 曾川 幸恵 ²⁾ 福田 詩子 ³⁾		2 単位 60 時間	講義	2年 前期～後期
実務経験	1)～3) 看護師 助産師				
授業の概要	妊娠・分娩・産褥期の看護を中心に周産期の母子の健康と家族を含めた支援について学び、妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常のアセスメントを行える。				
授業の到達目標	1. 妊産褥婦および家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解できる。 2. 妊娠期、分娩期、産褥期の生理的な経過を理解し、アセスメントおよび看護の実際を学ぶ。 3. 母子の健康の保持・増進のためのアセスメントができ、必要な看護を理解する。 4. 胎児から新生児への生活環境および生理的変化を理解し、新生児の看護を学ぶ。 5. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の異常を理解し、早期発見と健康回復のための看護を理解する。				
授業計画 (全 30 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 正常妊娠の経過 ①		講義	廣渡
2	2	2. 正常妊娠の経過 ②			
3	2	3. 正常妊娠の経過 と看護 ①			
4	2	4. 正常妊娠の経過 と看護 ②			
5	2	5. 正常妊娠と異常妊娠の経過と看護 ①			
6	2	6. 正常妊娠と異常妊娠の経過と看護 ②			
7	2	7. 正常分娩の経過 ①			
8	2	8. 正常分娩の経過 ②			
9	2	9. 正常分娩の経過と看護 ①			
10	2	10. 正常分娩の経過と看護 ②			
11	2	11. 異常分娩の経過と看護 ①			
12	2	12. 異常分娩の経過と看護 ②			
13	2	13. 1～12回目までのまとめ			
14	2	14. 正常褥婦の経過と看護 ①			曾川
15	2	15. 正常褥婦の経過と看護 ②			
16	2	16. 異常褥婦の経過と看護 ①			
17	2	17. 異常褥婦の経過と看護 ②			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ	次頁参照				
備考					

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	廣渡 理枝 ¹⁾ 曾川 幸恵 ²⁾ 福田 詩子 ³⁾		2 単位 60 時間	講義	1 年 前期～後期
実務経験	1)～3) 看護師 助産師				
授業の概要	妊娠・分娩・産褥期の看護を中心に周産期の母子の健康と家族を含めた支援について学び、妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常のアセスメントを行える。				
授業の到達目標	1. 妊産褥婦および家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解できる。 2. 妊娠期、分娩期、産褥期の生理的な経過を理解し、アセスメントおよび看護の実際を学ぶ。 3. 母子の健康の保持・増進のためのアセスメントができ、必要な看護を理解する。 4. 胎児から新生児への生活環境および生理的变化を理解し、新生児の看護を学ぶ。 5. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の異常を理解し、早期発見と健康回復のための看護を理解する。				
授業計画 (全 30 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
18	2	18. 正常新生児の看護 ①		講義	曾川
19	2	19. 正常新生児の看護 ②			
20	2	20. 正常新生児の看護 ③ 異常新生児の看護 ①			
21	2	21. 異常新生児の看護 ②			
22	2	22. 異常新生児の看護 ③			
23	2	23. 看護過程 ① 産褥期、新生児期		講義 演習	福田
24	2	24. 看護過程 ② 産褥期、新生児期			
25	2	25. 看護過程 ③ 産褥期、新生児期			
26	2	26. 看護過程 ④ 産褥期、新生児期			
27	2	27. 新生児のバイタルサイン測定・観察・沐浴演習 ①			
28	2	28. 新生児のバイタルサイン測定・観察・沐浴演習 ②			
29	2	29. 新生児のバイタルサイン測定・観察・沐浴演習 ③			
30	2	30. 新生児のバイタルサイン測定・観察・沐浴演習 ④			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		1. 廣渡 筆記試験 100点 (13回目終了後) 2. 曾川 筆記試験80点 (22回目終了後) + 福田 課題 演習態度 20点 (30回目終了後) = 100点 最終評価 1. 2の評価点の平均とする。			
テキスト		母性看護学 2 (医学書院) 母性看護学各論 (医学書院)			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ		正常でも変化する身体の変化を少しでもイメージできるようになりましょう。			
備考					

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学概論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中本 亮		1 単位 15 時間	講義	2年 前期
実務経験	看護師 大学講師				
授業の概要	精神看護の基本概念である精神の健康と不健康、心の機能と構造を理解し、歴史的な変遷を踏まえたうえで看護の対象である心を病む(精神障がいをもつ)個人やその家族への看護に必要な基礎的知識を理解する。				
授業の到達目標	1. 精神の健康と不健康について、心の機能と構造を理解する。 2. 対象理解を深めるために、自己理解・他者理解・相互作用について理解し、その必要性を説明できる。 3. 精神医療・保健・看護の変遷と動向を理解し、今日の課題を述べることができる。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 精神看護学とは		講義	中本
2	2	2. 心の機能と構造			
3	2	3. コミュニケーションにおける対人関係			
4	2	4. 患者－看護師関係			
5	2	5. 精神保健医療の歴史			
6	2	6. 精神医療保健に関する法律			
7	2	7. リカバリー・ストレングス			
8	1	8. まとめ			
学習課題 (事前・事後)					
成績評価の方法		筆記試験 100点			
テキスト		精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院)			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ		私たちは誰もが同じ環境に置かれることで心を病む可能性があります。心を病む人々に対する歴史的な対応の変遷から、現代の精神医療・保健・看護を見つめていきます。良き理解者となるために、知性のみならず感性をも刺激できるような授業を参加型・対話型で展開します。			
備考					

専門分野Ⅱ（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	原賀 憲亮 ¹⁾ (疾患・治療・検査) 桑野 浩明 ²⁾ (精神療法) 工藤 加奈子 ³⁾ 古田 小雪 ⁴⁾ (看護)		2 単位 45 時間	講義	2年 前～後期
実務経験	1) 医師2) 大学教授3) 4) 看護師 看護教員				
授業の概要	1. 精神科疾患、治療、検査について学ぶ。 2. 精神療法の目的、特徴について学ぶ。 3. 精神障害を取り巻く現状と精神保健福祉法のもと患者の権利を尊重した看護のあり方を理解する。 4. 精神障害を持つ対象と看護師の関係性を構築するための基本的な視点を理解する。				
授業の到達目標	1. 精神疾患と疾患に伴う症状、治療、検査を理解する。 2. 精神療法の実際を理解する。 3. 精神医療福祉の歴史を踏まえて、精神障害者の現状を理解する。 4. 精神保健福祉法を理解し、患者の権利を尊重する処遇、看護について考える。				
授業計画 (全23回)		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		【精神療法の実際】			
1	2	1. 精神療法の実際(導入・契約・介入・終結)		講義	桑野
2	2	2. 転移・逆転移の理解と対応			
3	2	3. 精神療法を体験する(フォーカシング体験)		講義・演習	
4	2	4. 様々な精神療法(精神分析・認知行動療法・パーソンセンタードセラピー)		講義	
5	2	5. 心理検査(質問紙法・投影法・描画法・作業療法・知能検査)		講義・演習	
6	2	6. 精神療法の実習(ロールプレイにより精神療法を学ぶ)			
7	2	7. 対人援助者のこころのケア		講義	
		【疾患・治療・検査】			
8	2	1.精神症状		講義	原賀
9	2	2.検査と治療			
10	2	3. 統合失調症、気分障害			
11	2	4. 神経症、パーソナリティ障害			
12	2	5. 認知症、症状精神病			
13	2	6. アルコール・薬物依存・てんかん			
14	2	7. 思春期の精神障害			
		次頁参照			
学習課題 (事前・事後)	次頁参照				
成績評価の方法	次頁参照				
テキスト * 参考文献等	次頁参照				
学生へのメッセージ	次頁参照				
備考					

専門分野Ⅱ（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	原賀 憲亮 ¹⁾ (疾患・治療・検査) 桑野 浩明 ²⁾ (精神療法) 工藤 加奈子 ³⁾ 古田 小雪 ⁴⁾ (看護)		2 単位 45 時間	講義	2年 前～後期
実務経験	1) 医師 2) 大学教授 3) 4) 看護師 看護教員				
授業の概要	1. 精神科疾患、治療、検査について学ぶ。 2. 精神療法の目的、特徴について学ぶ。 3. 精神障害を取り巻く現状と精神保健福祉法のもと患者の権利を尊重した看護のあり方を理解する。 4. 精神障害を持つ対象と看護師の関係性を構築するための基本的な視点を理解する。				
授業の到達目標	1. 精神疾患と疾患に伴う症状、治療、検査を理解する。 2. 精神療法の実際を理解する。 3. 精神医療福祉の歴史を踏まえて、精神障害者の現状を理解する。 4. 精神保健福祉法を理解し、患者の権利を尊重する処遇、看護について考える。				
授業計画 (全 23 回)	授業内容			授業方法	担当
回数	時間				
		【看護】			
15	2	1. 精神医療保健福祉の歴史	講義	工藤	
16	2	2. 精神看護学とは 1) 精神を病むということ 2) 精神看護の課題	講義・演習		
17	2	3. DVD視聴	講義		
18	2	4. DVD視聴後のワークシート作成	演習		
19	2	5. 精神保健福祉法における入院形態	講義・演習	古田	
20	2	6. 患者処遇について			
21	2	7. 精神科看護における安全管理について			
22	2	8. 精神科における事故等			
23	1	9. まとめ	講義・演習	工藤	
学習課題 (事前・事後)	授業内容の小テストを実施することがある。ワークシートあり。				
成績評価の方法	1. 原賀先生100点、2. 桑原先生100点、3. 工藤 30点 古田 70点 最終評価 1. 2. 3の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等	精神障害の基礎 精神看護学1 医学書院 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院				
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	工藤 加奈子 ¹⁾ 古田 小雪 ²⁾		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期
実務経験	1) 2) 看護師 看護教員				
授業の概要	精神科疾患に特有の症状により生じる生活のしにくさを理解し、持てる力を活用してレジリエンスを支援する看護の視点を学習する。				
授業の到達目標	1.精神科における診療、治療、検査時の看護援助を具体的に考える。 2.疾患に特有の症状に対する看護を具体的に考える。 3.看護過程の展開を通して、対象の持てる力を支援する看護を具体的に考える。				
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当
回数	時間				
1	2	1. 診察に伴う援助 2.薬物療法に伴う看護			古田
2	2	3.電気痙攣療法を受ける患者の看護			
3	2	4.社会療法、精神療法を受ける患者の看護			
4	2	5.精神疾患の特徴とその看護 1)統合失調症の主要症状と看護			工藤
5	2	2)気分感情障害の主要症状と看護			
6	2	3)不安障害の主要症状と看護			
7	2	4)神経性無食欲症、パーソナリティ障害の主要症状と看護			
8	2	5)依存症、症状精神病の特徴と看護			
9	2	6.リエゾン精神看護			
10	2	7. 精神障害を持つ対象の地域における生活の現状と必要な支援			
11	2	8. 患者-看護師関係の構築の必要性和その方法			
12	2	9.患者-看護師関係を振り返る(プロセスレコード演習)			
13	2	10.看護過程の展開(統合失調症事例) ①			
14	2	11.看護過程の展開(統合失調症事例) ②			
15	2	12.看護過程の展開(統合失調症事例) ③			
学習課題 (事前・事後)	プロセスレコードの演習課題、看護過程展開の課題あり。				
成績評価の方法	1. 工藤(筆記試験60点+看護過程提出10点=70点) 2. 古田(筆記試験30点) 最終評価 1. 2の評価点の合計とする。				
テキスト * 参考文献等	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院)				
学生へのメッセージ	精神科看護は自分や周囲の人との関わりの中にある身近なものです。				
備考					

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目		看護管理		単位数	授業形態	開講時期
担当教員		倉地 美智子 ¹⁾ 山口和子 ²⁾ 【看護管理】 柿坂 静香 ³⁾ 【医療安全】		1 単位 15 時間	講義・演習	3年 前期
実務経験		1)看護師 認定看護管理者 2)看護師 救急看護認定看護師 3)看護師				
授業の概要		質の高い看護サービスの提供を目指すことは時代の要請です。看護職は医療専門職としてまたチーム医療の一員として、医療の国際的動向と医療・看護提供システム、医療・看護ケアの質に関する概念(リスクマネジメントも含む)について学ぶ。				
授業の到達目標		1. 看護の質の保証のための組織のマネジメントについて学ぶ。看護専門職として組織の管理者の役割を知る。 2. 国際社会における看護専門職の活動を知り諸外国との協力の中で果たす役割を学ぶ。 3. 災害看護の基礎的知識を学び、災害時の看護の役割を理解する。				
授業計画 (全 8 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		【看護管理】				
1	2	1. 看護マネジメントとは 組織とは リーダーシップについて			講義	倉地
2	2	2. 組織構造について 看護サービスマネジメント				
3	2	3. 災害看護について ①				山口
4	1	4. 災害看護について ②				
		【医療安全】				
5	2	1. 医療安全とは			講義	柿坂
6	2	2. 医療安全の取り組み				
7	2	3. 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント				
8	2	4. チームで取り組む医療安全				
学習課題 (事前・事後)						
成績評価の方法		1. 看護管理 筆記試験 100点(倉地70点 山口30点) 2. 医療安全 筆記試験 100点 最終評価 1. 2の評価点の平均とする。				
テキスト * 参考文献等		専門分野 看護の統合と実践2 看護管理 (医学書院) 専門分野 看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院)				
学生へのメッセージ		療養環境とは何か、今そこに何が求められているのか、社会が看護者に問うているもの、また看護者が問うていかなければならないことを考え、これからの看護を追求していきましょう。				
備考						

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	看護倫理		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	芹野 恭子 ¹⁾ 荒木 正見 ²⁾		1 単位 30 時間	講義	3年 前期～後期	
実務経験	1)看護師 看護教員 2)大学教授					
授業の概要	1. 医療に携わる者の倫理についての基本を学び、インフォームドコンセントについて学ぶ。 2. 倫理的な問題のアプローチ方法を学ぶ。 3. 事例をとおして、倫理的態度の獲得のための自己の課題を考える。 4. 看護専門職の倫理について実習の場面から考える。					
授業の到達目標	1. 医療従事者として倫理的態度を獲得する。 2. 看護実践の倫理について考え、自己の看護観を確立する 3. 看護者の立場で倫理的な問題をとらえ倫理綱領を実践に活かす意味について理解する					
授業計画 (全 15 回)		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
1	2	倫理学の基本的な考え方（テキスト第1部1章）			講義	荒木
2	2	インフォームドコンセント（テキスト第1部2章）				
3	2	倫理的問題へのアプローチ（テキスト第2部8章）				
4	2	看護倫理とは何か（テキスト第2部6章）				
5	2	専門職の倫理（テキスト第2部7章）				
6	2	倫理的問題へのアプローチ				
7	2	倫理的態度の獲得のための自己課題			講義	芹野
8	2	倫理的問題への気づき				
9	2	倫理的問題のアプローチの手法				
10	2	自己の看護観を発表する レポート提出			演習	
11	2	自己の看護観を発表する レポート提出				
12	2	倫理的な問題の抽出(実習の場面を通して考える)			GW	
13	2	倫理的問題のまとめりづくり (KJ法で模造紙に整理)				
14	2	倫理綱領をふまえた問題の整理・分析・発表				
15	2	まとめ				
学習課題 (事前・事後)	看護学実習での学びを言語化し発展させておく					
成績評価の方法	荒木 100点 授業中に提示する 芹野 100点 課題レポート及び最終レポートで評価(授業中に提示する)					
テキスト	系統看護学講座 看護倫理（医学書院）					
* 参考文献等						
学生へのメッセージ	・実習の場面で「何か違う」「どうしてかな」という気づきを大事にして考える機会にしてほしい。 ・看護者にとっての日常的な行為は患者にとって非日常なものであることや、見えていること違うために起こる現象に気付いてほしい。・看護者として業務をする上で倫理的問題に敏感で、ジレンマに対応できる人であってほしい。					
備考						

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	医療安全Ⅰ		単位数	授業形態	開講時期		
担当教員	宮川 智子他 ¹⁾		1 単位 30 時間	講義	2年 前期		
実務経験	1)看護師 看護教員						
授業の概要	実習前の安全教育の一貫として主に日常生活援助技術について安全で、科学的根拠に基づいた看護技術を習得する。また、臨床場面を想定してシミュレーションを行い臨床判断能力(気づく・解釈する)を養う。						
授業の到達目標	1. 医療事故が起こる要因について復習し、リスクマネジメントの実際を学習する中で、安全で科学的根拠に基づいた実践を学ぶ。 2)臨床場面を想定した事例を通して、気づく・解釈する臨床判断能力の必要性を理解する。さらに実践を振り返る中で、よりよい看護について探求する姿勢を養う。						
授業計画 (全 回)	授業内容			授業方法	担当		
回数						時間	
1	2	医療安全オリエンテーション			講義	宮川	
2	2	医療安全の概念					
3	2	臨床判断能力について					
4	2	点滴静脈内注射施行中の寝衣交換 ①			演習	宮川他	
5	2	点滴静脈内注射施行中の寝衣交換 ②					
6	2	酸素吸引及び吸引 ①					
7	2	酸素吸引及び吸引 ②					
8	2	呼吸困難のある患者への対応 ①			GW		
9	2	呼吸困難のある患者への対応 ②					
10	2	シミュレーション・デブリーフィング ①			演習		
11	2	シミュレーション・デブリーフィング ②					
12	2	シミュレーション・デブリーフィング ③					
13	2	シミュレーション・デブリーフィング ④					
14	2	ストレッチャー移送 ①					
15	2	ストレッチャー移送 ②					
学習課題 (事前・事後)	医療安全オリエンテーションで提示						
成績評価の方法	筆記試験(80点)授業参加状況(20点) 学習状況、忘れ物、身だしなみなども含めて態度評価を行う。身だしなみについては、「看護学生としての身だしなみ」を基準とする。						
テキスト * 参考文献等	専門分野 看護の統合と実践2 医療安全(医学書院)・専門分野 臨床看護総論(医学書院)						
学生へのメッセージ	演習・シミュレーションで養った臨床判断能力を活かした看護を実習で実践できるように頑張りましょう。						
備考							

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	医療安全Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	小倉直美 他		1 単位 30 時間	講義	1 年 前期	
実務経験	看護師 看護教員					
授業の概要	1. 安全で科学的根拠に基づいた看護技術を習得する。 2. 患者の変化に早期に気づき対処するアセスメント能力を養う。					
授業の到達目標	1. 臨地実習の場面を想定し、安全で科学的根拠に基づいた看護技術を習得する。 2. 臨床判断能力(気づき・解釈・反応・省察)を身につける。 3. 看護場面(診療場面)における事故防止のための知識、技術を習得する。 4. フィジカルイグザミネーショントレーニングを通じて、異常の早期発見および対応能力、判断力を養う。					
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当	
回数						時間
1	2	1. 膀胱留置カテーテルの挿入			演習	小倉 他
2	2	2. 膀胱留置カテーテルの挿入				
3	2	3. 筋肉内注射の実施				
4	2	4. 筋肉内注射の実施				
5	2	5. 胃管挿入の実施				
6	2	6. 胃管挿入の実施				
7	2	7～9 リスクトレーニング				
8	2	1) 翼状針を用いた点滴静脈内注射の実施				
9	2	2) 輸血中の患者の観察				
10	2	10～11 フィジカルイグザミネーショントレーニング 1				
11	2	1)呼吸困難のある患者への対応				
12	2	12～15 フィジカルイグザミネーショントレーニング 2 1)2人の患者への対応 2)看護師への適切な報告				
13	2					
14	2					
15	2					
学習課題 (事前・事後)	事前課題を行ってから、演習に臨む。(別紙) 演習中は、配付された学習課題に取り組む。					
成績評価の方法	筆記試験 2回 100点 (1回目～6回目 100点 7回目～15回目 100点) その他、演習への参加態度、課題の学習状況、身だしなみなども評価対象とする。 最終評価 2回の筆記試験の評価点の平均とする。					
テキスト	専門分野 看護の統合と実践2 医療安全(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)					
* 参考文献等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 他 演習の事例に関連するテキスト					
学生へのメッセージ	3年次の本格的な実習開始前の4月、後半実習・統合実習前の9月に、より実践に即した内容の演習を行います。					
備考						

専門分野

専門分野		基礎看護学Ⅰ実習	単位数	授業形態	開講時期
授業科目					
担当教員		兼川 五月 他	1 単位 45 時間	実習	1 年 後期
実務経験		看護師 看護教員			
授業の概要		1. 生活の場としての療養環境を理解する。 2. 対象の回復過程を整えるケアの方向性を考えることができる。。			
授業の到達目標		1. 対象の回復過程を整えるための療養環境の整備ができる。 2. 対象と適切なコミュニケーションを図ることができる。 3. 対象に起きている現象(生命過程)についてアセスメントする方法がわかる。 4. 対象が受けている看護ケアへの参加を通して生活過程をアセスメントする方法がわかる。 5. 対象のケアの方向性を考えることができる。 6. 看護学生として実習に臨む姿勢・態度を習得する。			
授業計画		授業内容		授業方法	担当
回数	時間				
		基礎看護学Ⅰ実習要綱参照			
実習場所		製鉄記念八幡病院			
成績評価の方法		ルーブリックを用いて評価する。			
学習課題 (事前・事後)		基礎看護学Ⅰ実習要綱参照			
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野

授業科目	基礎看護学Ⅱ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	兼川 五月 他	2 単位 90 時間	実習	2年 前期
実務経験	看護師 看護教員			
授業の概要	1. 看護過程の展開方法を理解し、対象に応じた看護実践の方法を習得する。 2. 実践した看護を振り返り、自己の探究心を養うとともに看護者としての責務を学ぶ。			
授業の到達目標	1. KOMIケア理論を活用し、看護過程の展開を行う。 2. 対象に応じた看護を実践する能力を養う。 3. 看護過程の展開を通して、実践した看護を振り返り学びを深める。 4. 看護学生としての基本的な姿勢・態度を習得する。			
授業計画		授業内容	授業方法	担当
回数	時間			
		基礎看護学Ⅱ実習要綱参照		
実習場所	製鉄記念八幡病院			
成績評価の方法	ルーブリックを用いて評価する。			
学習課題 (事前・事後)	基礎看護学Ⅱ実習要綱 参照			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	地域在宅看護論		単位数	授業形態	開講時期
担当教員	柳田 美香 他		2 単位 90 時間	実習	3 年 前期～後期
実務経験	看護師 看護教員				
授業の概要	1. 在宅で療養する対象とその家族の全体像および健康問題を理解し、看護の果たす役割を認識し行動できる能力を養う。 2. 保健、医療、福祉活動の実際を通して、看護の継続性を理解する。				
授業の到達目標	1. 在宅で療養する対象の健康障害をとらえ、在宅における健康の保持、増進を図る援助の必要性が理解できる。 2. 地域で生活している人々の健康の保持増進、疾病予防の援助の理解ができる。 3. 保健、医療、福祉サービスの活用とその連携の重要性と看護の役割が理解できる。				
授業計画 (全 回)	授業内容			授業方法	担当
回数 時間					
	地域在宅看護論実習要綱参照				
実習場所	八幡訪問看護ST せいてつ訪問看護ST 北九州市内のグループホーム 北九州市立総合療育センター 八幡東区役所 生活支援課 地域保健係 製鉄記念八幡病院 腎センター				
成績評価の方法	ルーブリックを用いて評価する。				
学習課題 (事前・事後)	地域 在宅看護論実習要綱参照				
学生へのメッセージ					
備考					

専門分野

授業科目	成人看護学実習		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	梅木恵利 他		2 単位 90 時間	実習	2年 後期	
実務経験	看護師 看護教員					
授業の概要	1. 成人期にある患者の特徴を理解し、対象に応じた健康問題をとらえ看護する能力を養う。 2. 健康のレベルに応じた適切な看護を行うための基礎的能力を養う。					
授業の到達目標	1. 受け持ち患者の全体像の把握を通して、成人期の特徴を理解する。 2. 受け持ち患者の看護過程展開を通して慢性期もしくは回復期にある患者の経過に応じた看護の特徴を理解する。 3. 受け持ち患者（もしくは対象）に行われている検査・治療・処置の目的、適応、方法及び検査・治療・処置における看護師の役割を理解する。 4. 受け持ち患者を取り巻く他職種との調整と連携における看護師の役割を理解する。 5. 看護学生として実習に臨む姿勢・態度を身につける。					
授業計画		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		成人看護学実習要綱参照				

専門分野

専門分野

授業科目	経過別看護Ⅰ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	梅木恵利 他	2 単位 90 時間	実習	3年 前期
実務経験	看護師 看護教員			
授業の概要	1. 急性期にある患者の特徴を理解し、対象に応じた健康問題をとらえ看護する能力を養う。 2. 健康のレベルに応じた適切な看護を行うための基礎的能力を養う。			
授業の到達目標	1. 手術を受ける受け持ち患者を身体的状態、精神的状態、社会的背景から統合してとらえる。 2. 急性期にある患者の回復過程の促進に向けた看護を実践し、急性期の看護の特徴を理解する。 3. 受け持ち患者(もしくは対象)に行われている検査・治療・処置の目的、適応、方法及び検査・治療・処置における 看護師の役割を理解する。 4. 看護学生として実習に臨む姿勢・態度を身につける。			
授業計画	授業内容		授業方法	担当
回数				
	経過別看護Ⅰ実習要項参照			

專門分野

授業科目	経過別看護Ⅱ実習		単位数	授業形態	開講時期	
担当教員	梅木恵利 他		2 単位 90 時間	実習	3年 前期	
実務経験	看護師 看護教員					
授業の概要	1. 終末期または慢性期にある患者の特徴を理解し、対象に応じた健康問題を捉え看護する能力を養う。 2. 健康のレベルに応じた適切な看護を行うための基礎的能力を養う。					
授業の到達目標	1. 受け持ち患者の全体像の把握を通して終末期(もしくは慢性期)にある患者の特徴を理解する。 2. 終末期(もしくは慢性期)にある患者の特徴をとらえ、経過に応じた看護ができる。 3. 受け持ち患者(もしくは対象)に行われている検査・治療・処置の目的、適応、方法及び検査・治療・処置における 看護師の役割を理解する。 4. 看護学生としての姿勢・態度を身につける。					
授業計画		授業内容			授業方法	担当
回数	時間					
		経過別看護Ⅱ実習要綱参照				

専門分野

専門分野		授業科目	老年看護学Ⅰ実習	単位数	授業形態	開講時期	
		担当教員	宮川智子 他	2 単位 90 時間	実習	2年 後期	
		実務経験	看護師 看護教員				
		授業の概要	1. 老年期にある対象の特徴及び健康障害に応じた個別性のある看護の実際を理解するとともに 2. 実践力を養う。また、高齢者を取り巻く社会の支援システムにおける看護の役割を理解する。				
		授業の到達目標	1. 老年期にある患者とコミュニケーションをはかり価値観、時代背景、生活史を含めた対象を理解する。 2. 老年期にある患者の健康障害を看護の視点でアセスメントしケアの方向性を考える。 3. 老年期にある患者に応じた看護実践の方法を習得する。 4. 介護保険施設における利用者の特徴及び看護活動について理解する。 5. 看護学生として実習に臨む姿勢・態度を身につける。				
		授業計画	授業内容			授業方法	担当
回数	時間						
		老年看護学Ⅰ実習要項参照					
		実習場所	1. 製鉄記念八幡病院 2. 介護老人保健施設 みやこ 3. 年長者の里 介護老人福祉施設 大蔵園 4. 介護老人福祉施設シルバー・サン・ホーム				
		成績評価の方法	ルーブリックを用いて評価する。				
		学習課題 (事前・事後)	老年看護学Ⅰ実習要項参照				
		学生へのメッセージ					
		備考					

[illegible]

専門分野

専門分野		授業科目	小児看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
		担当教員	藤田直子	2 単位 90 時間	実習	3年 前期～後期
		実務経験	看護師 看護教員			
		授業の概要	子どもの成長発達過程の特徴を理解し、あらゆる発達段階・健康レベルにある子どもとその家族に適切な看護を実践する基礎的能力を習得する。			
		授業の到達目標	1.子どもの成長発達過程と子どもを取り巻く環境を理解し、子どもと家族の尊厳・権利を擁護した関わりを理解する。 2.子どもの抱える健康障害を看護の視点でアセスメントし、発達段階を考慮した個別性のある看護過程が展開できる。 3.子どもと家族の安全・安楽を守り、適切な援助を実践できる。 4.子どもをめぐる保健・医療・福祉・教育の各機能とそれらの連携を理解し、その中での小児看護の役割を考察できる。			
		授業計画	授業内容	授業方法	担当	
回数	時間					
		小児看護学実習要綱参照				

専門分野

授業科目		母性看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員		芹野恭子 ¹⁾ 福田詩子 ²⁾ 他	2 単位 90 時間	実習	2年 後期
実務経験		1) 看護師 看護教員 2) 看護師 助産師			
授業の概要		女性のライフサイクルにおける母性各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の特徴及び新生児の特徴を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。			
授業の到達目標		1. 妊娠期・分娩期・産褥期にある母性の生理的変化を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期における看護を学ぶ。 2. 母性各期の健康障害に対する看護及び保健指導について学ぶ。			
授業計画		授業内容	授業方法	担当	
回数	時間				
		母性看護学実習要綱参照			

専門分野

専門分野

授業科目	精神看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	工藤加奈子 ¹⁾ 古田小雪 ²⁾	2 単位 90 時間	実習	3年 前期～後期
実務経験	看護師 看護教員			
授業の概要	精神障害を持つ対象を理解し、対象に応じた看護の方法を学ぶ			
授業の到達目標	1. 精神科病棟の特徴を知り、精神保健福祉法に基づいた患者処遇の実際を理解する。 2. 患者の『持てる力・健康な力』に焦点を当て、患者の全体像を理解する。 3. 精神科看護の実際を通して、看護の治療的意義について理解する。 4. 社会復帰・地域生活を支える看護について理解する。 5. 看護学生として実習に臨む姿勢・態度を身につける。			
授業計画		授業内容	授業方法	担当
回数	時間			
		精神看護学実習要綱参照		

専門分野

専門分野		授業科目	看護の統合と実践実習	単位数	授業形態	開講時期
		担当教員	小倉 直美 他	2 単位 90 時間	実習	3年 後期
		実務経験	看護師 看護教員			
		授業の概要	1. 3年間の学習を生かし、看護を統合的かつ継続的に展開する看護実践能力を養う。 2. 医療チームの一員であることを自覚する。			
		授業の到達目標	1.. 医療チームの使命を知り、看護チームの一員としての行動・役割を理解し看護職間、および他部門との協働、連携を理解する。 2. 複数の患者を受け持ち、多重課題への対応や計画的で安全なケア提供のために必要な看護実践能力を養う。 3. 夜間実習を通し、患者の24時間の生活を理解するとともに、夜間における看護の実際を知る。 4. 看護の役割・責務・態度について学びを深め、専門職業人として意識して行動ができる。			
		授業計画	授業内容	授業方法	担当	
回数	時間					
		看護の統合と実践実習要綱参照				
		実習場所	製鉄記念八幡病院			
		成績評価の方法	ルーブリックを用いて評価する。			
		学習課題 (事前・事後)	看護の統合と実践実習要綱参照			
		学生へのメッセージ				
		備考				